復た船に乘りて向側に去り給へり。

一四 また彼等はパンを携ふことを忘れたり。されば船にて彼等のうちに、一つのパンの外はあらざりき。一五 かくて彼は彼等に言ひ含め、云ひ給ひけるは、覩よ、パリサイの人々のパン種とヘロデのパン種とを視よ。一六 乃ち彼等互に勘考して、云ひけるは、是れ我等のパンを持たざるが故なり。一七 されば イエス知りて彼等に云ひたまふ、何んすれぞ汝等はパンを持たざることを勘考するや。汝等は未だ解せず、また悟らざるか。汝等の心は尙ほ鈍きか。一八 目ありて汝等は視ざるか。また耳ありて汝等は聞かざるか。また汝等は憶ひ出でざるか。一九 われ五つのパンを五千〔人〕のために擘きしとき、汝等は擘片の盈ちたる手籃を幾つ拾ひしや。彼等云ふ、十二。二〇 また七つを四千〔人〕のためにせしとき、擘片の盈ちたる籠の幾つを拾ひしや。乃ち彼等いへり、七つ。二一 かくて彼等に云ひ給へり、如何にして汝等は悟らざるか。

二二 また彼はベテサイダに來り給へり、然るに人々彼に盲者を連れ來り、且つこれに捫り給はんことを乞へり。二三 乃ち彼は盲者の手を執りて、これを村の外に連れ出だし給ひ、且つその目に唾し、手を彼の上に按きて、何かを視るや否やと問ひ給へり。二四 されば視上げて、彼云へり、われ人を視る、卽ち樹の如き歩む〔もの〕を視る。二五 かくて復た彼は手を彼の目の上に按きて、視上げしめ給へり、乃ち直れり。されば明かにすべてのものをつらつら視たり。二六 かくて彼を己が家に使はして、云ひ給ひけるは、村にも入り來る勿れ、また村の誰にもいふ勿れ。

二七 また イエスと弟子等と出でて、ピリピのカイザリヤの村々に到れり。かくて道にて彼は弟子等に問ふてこれに云ひ給ひけるは、人々は我を誰なりと云ふや。二八 乃ち彼等答へり、バプテズマのヨハネ、また他の者はエリヤ、また他の者は豫言者たちの一〔人〕。二九 かくて彼は彼等に云ひ給ふ、されど汝等は我を誰なりと云ふや。乃ち ペテロ答へて云ふ、汝はキリストにおはします。三〇 然るに彼は、彼に就きて誰にも云ふ勿れ、と彼等を戒め給へり。

三一 かくて彼は、人の子は必ず多くの苦を受け、また長老等及び祭司長等幷に學者等より棄てられ、また殺され、また三日の後に起たざるべからず、と彼等を敎へ始め給へり。三二 また彼はこの言を明かに話たり給へり。乃ち ペテロ進みて彼を執へ叱し始めたり。三三 然るに彼は振り返り、且つ弟子等を見つつ、ペテロを叱していひ給ひけるは、我が後ろに往け、サタナ。そは汝は神の事を念はず、されど人の事を〔念ふ〕が故なり。

三四 かくて弟子等と同に群衆を召して、彼等に曰へり、誰ぞもし我に跟き來らんと欲せば、己に克ち、且つ己が十字架を負ひ、かくて我に從ふべし。三五 そは誰にても、その魂を救はんと欲する者はこれを失ふべく、されど誰にてもわれのために、また福音の〔ため〕に、その魂を失ふ者、此の者はこれを救ふべければなり。三六 人もし全世界を儲けて、その魂を損せば、何の益あらんや。三七 或ひは人何を與へてその魂に換ふべけんや。三八 そは誰にても、姦にし

て邪深き此の代にて、我と我が言とを恥づる者は、人の子もその父の榮光のうちに、聖なる使等と共に來らんとき、これを恥づべければなり。

第九章

また彼等に云ひ給へり、誠にわれ汝等に云はん、此處に立つ者のうちに、力にて來る神の國を見るまで、必ず死を味はざる人々あり。

二また六日の後、イエスはペテロまたヤコブまたヨハネを携へ、人を避けて高き山に登り給ふ。かくて彼等の前にて変變り給へり。三またその衣は耀き、甚だ白くして雪の如く、地上の晒手もかく白うすること能はざる程になり給へり。四エリヤはモヲゼと同に彼等に現はれて、イエスと同に話たりつつありき。五かくてペテロ答へてイエスに云ふ、ラビ、此處に在るは我等のために良し、されば我等に廬を三つ造らしめ給へ、汝のために一つ、またモヲゼのために一つ、またエリヤのために一つ。六そは何を話たるべきかを彼は知らざりければなり。そは彼等いたく懼れたればなり。七かくて雲發りて彼等を覆へり。また聲、雲より來りて云ひ給ひけるは、此の者は我が子、愛せらるる者なり。汝等彼より聞け。八また忽ち顧はししに、もはや彼等は誰をも見ず、唯獨りイエスを已等のうちに〔見るのみなりき〕。九かくて彼等は山より下りしとき、彼は、人の子の死人のうちより起されたるときにあらざれば、見し事を誰にも陳ぶる勿れ、と彼等に言ひ含め給へり。一〇乃ち彼等は、死人のうちより起くるとは何なりや、と論じつつ己自らに對ひてこの言を掘へたり。一一かくて彼に問ふて彼等云ひけるは、エリヤは必ず先づ來らざるべからず、と學者等の云ふは何ぞや。一二乃ち彼答へて、彼等に曰へり、エリヤは如何にも先づ來りて、すべての事を挽き回さん、されば、彼は多くの苦を受け、また無價値とせらる、と人の子につきて錄されたるは如何〔ならん〕。一三されどわれ汝等に云はん、エリヤも來れり、かくて彼につきて錄されたる如く、彼等はその欲するところの事を彼に爲せりと。

一四かくて彼等は弟子等の許に來りて、大なる群衆これを圍み、且つ學者等のこれと論ずるを見たり。一五また直に群衆みな彼を見ていたく駭けり。乃ち走り來りて彼に挨拶せり。一六かくて彼は學者等に問ひ給へり、汝等は彼等に對ひて何を論ぜしや。一七乃ち群衆のうちの一〔人〕、答へていへり、師よ、われ啞の靈に憑かれたる我が子を汝の許に連れ來れり。一八即ちいづこにてもその憑くところにて、彼を突き倒し、また泡をふき、また齒をくひしめ、且つ衰弱するなり。されば我これを逐ひ出ださんことを汝の弟子等にいへり、されど彼等は能はざりき。一九然るに彼答へて、彼に云ひ給ふ、ああ、信なき代なるかな、いつまでわれ汝等と偕にあらんや。われいつまで汝等を忍ばんや。彼を我が許に連れ來れ。二〇乃ち人々彼を連れ來れり。然るに彼を見しとき、直に靈はこれを痙攣せしめたり。されば地に倒れて泡ふきつつ彼は轉びたり。二一かくて彼はその父に問ひ給へり、いつの頃よりかくなりしや。乃ち彼いへり、幼少より〔なり〕。二二また彼は屢々彼を亡ぼさんために、火のなかにも、また水のなかにも投

げ入れたり。されど汝もし何事か能くし給はば、我等を不便に思して助け給へ。二三 乃ちイエス彼に曰へり、汝もし信ずることを得ば、信ずる者にはすべての事能ふなりと。二四 乃ち直に幼児の父は涙と共に叫び出でて云へり、主よ、我は信ず、我が信仰なきを助け給へ。二五 さればイエス群衆の走り集まりしを見て、不潔なる靈を叱して、これに云ひ給ひけるは、啞にて聾なる靈よ、われ汝に言ひ付く、出で來れ、且つもはやこれに入り來る勿れ。二六 乃ち〔靈は〕叫び且つ甚く痙攣せしめて、出で來れり、かくて彼は死人の如なれり。されば多くの者彼は死にたりと云へり。二七 然るにイエス手を拘へて起し給ひければ、彼は起てり。

二八 かくて彼の、家に入り來り給ひしとき、弟子等人を避けて彼に問へり、〔何故に〕我等は逐ひ出だすこと能はざりしか。二九 乃ち彼等に曰へり、此の類は禱と斷食とにあらざれば、何ものにても出だすこと能はず。

三〇 またそこより出で來りて、彼等はガリラヤを經て往けり。されど彼は誰も〔これを〕知ることを欲し給はざりき。三一 そは弟子等を教へておはしたればなり。かくて彼等に云ひ給へり、人の子は人々の手に付さるるなり、彼等はこれを殺すべし。また殺されし後、彼は三日めに起つべしと。三二 されど彼等は此の詞を解せず、また問ふことを懼れたり。

三三 また彼はカペナウムに到り給ふ。かくて家に來り給ひしとき、彼は彼等に問ひ給へり、汝等は己自らに對ひ、道にて何を勸考せしや。三四 然るに彼等は默してありき。そは道にて彼等は互に大なる者は誰ぞと爭ひ論じたればなり。三五 かくて彼は坐し給ひしとき、十二を召してこれに云ひ給ふ、もし誰ぞ一番たらんと欲せば、すべての者の末、またすべての者の事へ人たるべし。三六 また彼は幼児を取りて、彼等の眞中にこれを据ゑ給へり。かくてこれを抱き給ひて、彼等に曰へり、三七 誰にても此の如き幼児の一〔人〕を、我が名に於て受くる者は我を受けん、また誰にても我を受くる者は我を受くるにあらず、されど我を使はし給ひし者を〔受くるなり〕。

三八 かくてヨハネ答へて彼に云ひけるは、師よ、我等に從はざる者の、汝の名にて惡鬼を逐ひ出だすを見たり。されば我等これを禁じたり、そは我等に彼は從はざりければなり。三九 然るにイエス曰へり、禁ずる勿れ。そは我が名に於て力ある行を爲さん者にして、速に我を惡しざまにいひ得る者なければなり。四〇 そは汝等に逆らはざる者は、汝等に附く者なればなり。四一 そは誰にても、汝等はキリストのものなるの故に、我が名に於て水一杯を汝等に飲ましむる者は、誠にわれ汝等に云はん、必ずその報を失はざるべし。四二 また誰にても、我を信ずる小さき者のうちの一〔人〕を躓かしむる者は、もし磯臼をその頸に懸けられ、且つ海に投げ入れらるるとも、尙ほ彼のために良きなり。四三 またもし汝の手汝を躓かしめなば、根元より切り放せ。不具にて生に入り來るは、兩手ありてゲヘナに、熄えざる火にまで去り往くよりは、汝のために良きなり。四四 彼等の蟲は死なず、またその火の熄えざる處〔なり〕。四五 また汝の

足もし汝を躓かしめなば、これを根元より切り放せ。跛にて生に入り來るは、兩足ありてゲヘナに、熄えざる火に投げ入れらるるよりは、汝のために良きなり。四六 彼等の蟲は死なず、またその火の熄えざる處〔なり〕。四七 また汝の眼もし汝を躓かしめなば、取り出たせ。片眼にて神の國に入り來るは、兩眼ありて火のゲヘナに投げ入れらるるよりは、汝のために良きなり。四八 彼等の蟲は死なず、またその火の熄えざる處〔なり〕。四九 そはすべてのものは火にて鹽せらるべし、即ちすべての獻げ物は鹽にて鹽せらるべければなり。五〇 鹽は良きものなり。されど鹽もし鹽氣なくならば、何に入れて汝等はこれに味つけんとするか。汝等己自らのうちに鹽あらしめよ、且つ互に平和なれ。

第十章

かくて彼は立ち上り、そこよりヨルダンの向側を經て、ユダヤの境に來り給ふ。乃ち諸群衆復たその許に往き集まれり。されば彼は常の如く、復た彼等を教へ給へり。二 かくてパリサイの人々進み來りて彼を試みつつ、妻を去るは夫にとりて律しきや否やと問へり。三 然るに彼答へて彼等に曰へり、モヲゼは汝等に何を命ぜしや。四 乃ち彼等いへり、モヲゼは去り狀を書き、且つ去ることを許したり。五 然るにイエス答へて彼等に曰へり、彼は汝等の情なき心に對して、汝等に此の誡を錄したり。六 されど神は創造の初より、これを男子と女子とに爲し給へり。七 是れがために人は父と母とを措き、かくてその妻に粘くべし。八 即ち二者一つの身たるべし。されば もはや二つにはあらず、されど一つの身なり。九 是の故に神の合せ給ひしもの、人〔これを〕離すべからず。一〇 かくて家に〔入り給ひしとき〕弟子等復た此の事に就きて彼に問へり。一一 乃ち彼等に云ひ給ふ、誰にてもその妻を去り且つ他〔の者〕を娶る者は、彼に逆らひて姦淫を犯す〔なり〕。一二 また婦もしその夫を去り、且つ他〔の者〕に嫁がば、彼は姦淫を犯す〔なり〕。

一三 また人々彼の捫り給はんために、幼兒等を彼の許に連れ來れり、然るに弟子等これを連れ來りし者を叱したり。一四 然るにイエス見て腹立ち給ひ、且つ彼等に曰へり、幼兒の我が許に來ることを差しおけ、且つ彼等を禁ずる勿れ。そは神の國は此の如き者等のものなればなり。一五 誠にわれ汝等に云はん、誰にても幼兒の如くに神の國を受けずんば、必ずこれに入り來るまじ。一六 かくて彼等を抱き給ひて、その上に手を按き、これを祝し給へり。

一七 また彼の道に出で往き給ひしとき、一〔人〕走り來れり、かくて跪づきて問へり、善師よ、永の生を嗣ぐために、われ何を爲すべきや。一八 然るにイエス曰へり、何故に汝は我を善といふや、善は一、即ち神の外にあるなし。一九 汝は誡を知る、姦淫すべからず、殺すべからず、盜むべからず、僞の證を立つべからず、欺き取るべからず、汝の父と母とを敬へ。二〇 乃ち彼答へて彼にいへり、師よ、我は幼少よりすべて此等の事を衞れり。二一 さればイエス彼をつらつら視てこれを愛し給へり。かくて彼に曰へり、一つ汝に缺くるなり、往け、汝が有つ程〔のもの〕を賣り、且つ貧しき者に與へよ、されば汝は天に於て寶を有たん、かくて來れ、十

字架を負ひて我に從へ。二二 然るに彼はこの言のために憂ひ哀しみて去れり。そは彼は多くの資産を有ちたればなり。二三 さればイエス眺はして弟子等に云ひ給ふ、資産を有つ者の神の國に入り來るは如何に難きぞや。二四 乃ち弟子等その言に驚かされき。然るにイエス復た答へて彼等に云ひ給ふ、兒等よ、資産を頼む者の神の國に入り來るは如何に難きことなるぞや。二五 富める者の神の國に入り來るより、駱駝の針の穴を通るは尙ほ易し。二六 乃ち彼等は餘りに驚かされ、己自らに對ひて云ひけるは、されば誰か救はるることを得ん。二七 然るにイエス彼等をつらつら視て云ひ給ふ、人に添ふては能はざることなり、されど神に添はば〔能はざること〕にあらず。そは神に添はばすべての事能ふべければなり。二八 かくてペテロ彼に云ひ始めたり、見よ、我等一切を差しおき、且つ汝に從へり。二九 乃ちイエス答へて曰へり、誠にわれ汝等に云はん、誰にても我がため、また福音の〔ため〕に家、或ひは兄弟、或ひは姉妹、或ひは父、或ひは母、或ひは妻、或ひは兒、或ひは畠を差しおきし者は、三〇 今此の時に於て家、また兄弟、また妹姉、また母、また兒、また畠を迫害のうちに百倍〔受け〕、また來りつつある世に於ては永の生を受けざる者なし。三一 されど多くの者、最先なる者は最終なる者、また最終なる者は最先なる者たるべし。

三二 また彼等エロソルマに上る道にありき。かくてイエス先立ち往き給ひければ、彼等は驚けり、且つ從ひつつ懼れたり。かくて彼は復び十二を近づけ給ひて、將に己にふりかからんとする事を云ひ始め給へり。三三 見よ、我等エロソルマに上る、かくて人の子は祭司長等と學者等とに付されん、彼等はこれを死罪に定めん、またこれを國人に付さん、三四 かくて彼等はこれを嘲けらん、かくてこれを鞭たん、かくてこれに唾せん、かくてこれを殺さん。かくて三日めに彼は起つべし。

三五 またゼベダイの子ヤコブとヨハネと彼に進み往き、云ひけるは、師よ、望むらくは何にても我等の求むる事を我等に爲し給はんことを。三六 乃ち彼等に曰へり、何を汝等は我の汝等に爲さんことを欲するや。三七 乃ち彼等いへり、汝の榮光のうちに一は汝の右手に、また一はその左手に我等を坐せしめ給へ。三八 然るにイエス彼等に曰へり、汝等は求むるところのものを知らず。汝等は我が飲む杯を飲み、また我がバプテズマせらるるバプテズマにて、バプテズマせらるることを得るや。三九 乃ち彼等云へり、能くすべし。然るにイエス彼等に曰へり、如何にも我が飲む杯を汝等は飲み、また我がバプテズマせらるるバプテズマにて、バプテズマせらるるならん。四〇 されど我が右手と我が左手とに坐することは、與ふべき我がものにあらず、唯備へられたる者にのみ。四一 かくて〔これを〕聞きて十〔人〕はヤコブとヨハネとに就きて腹立て始めたり。四二 されどイエス彼等を召して云ひ給ふ、汝等は國人の長たるべく思はるる人々は彼等を主どり、また彼等の大なる者は彼等の上に權を執ることを知る。四三 されど汝等のうちにてはかくあるべからず。反つて誰にても汝等のうちに大なる者にならんと欲する者は、

汝等の事へ人たるべく、四四 また誰にても汝等のうちの一番にならんと欲する者は、すべての者の奴僕たるべし。四五 そは人の子さへ、事へらるるために來りしにあらず、されど事へ、且つ多くの者のために、その魂を贖に供へんとて〔來り〕たればなり。

四六 また彼等はエリコに來れり。かくて彼及び弟子等幷に大なる群衆のエリコより出で往くとき、テマイの子、盲者なるバルテマイ、道の傍に坐して物乞しつつありき。四七 かくてナザレ人イエスなりと聞き、彼は叫び且つ云ひ始めたり、ダビデの子よ、イエスよ、我を憐み給へ。四八 されば多くの者彼の默するやうこれを叱したり、然るに彼は增々ダビデの子よ、我を憐み給へ、と叫び出でたり。四九 乃ちイエス立ち止まりて彼を呼べと曰へり、されば人々盲者を呼びて彼に云ひけるは、勇ましかれよ。起て、汝を呼び給ふ。五〇 乃ち彼はその衣を脫ぎ捨て、立ち上りてイエスの許に到れり。五一 かくてイエス答へて彼に云ひ給ふ、何を汝は我の汝に爲さんことを欲するや。乃ち盲者いへり、ラボニ、我は視力を受けんことを。五二 さればイエス彼に曰へり、往け、汝の信仰汝を救へり。乃ち直に彼は視力を受けたり。かくて彼はイエスに從ひて道を〔往けり〕。

第十一章

かくて彼等はエルサレムに、エライヲンの山の對なるベテパゲとベタニヤに近づきしとき、彼は弟子等のうちの二〔人〕を使はし、二且つこれに云ひ給ふ、汝等の對なる村に往け。かくてそれに入り往かば、直に未だ人の乘りしことなき、繫がれたる仔驢馬を汝等は見出だすならん、それを釋きて連れ來れ。三 またもし誰ぞ汝等に、何故に汝等はかく爲すや、といはば、主これを要し給ふといへ、されば直に彼はそれを此處に使はすならん。四 乃ち彼等は去れり。かくて路にそひ、外の戸に對ひて繫がれたる仔驢馬を見出だせり、乃ち彼等はそれを釋けり。五 然るにそこに立てる或る者云へり、汝等は仔驢馬を釋きて何にするや。六 乃ち彼等イエスの命じ給ひし如くこれにいひければ、彼等許したり。七 かくて彼等はイエスの許に仔驢馬を連れ來れり。またその上に彼等の衣を掛けたり。乃ち彼はこれに乘り給へり。八 かくて多くの者は己が衣を道に敷き、また他の者は樹より枝を伐り落して、これを道に敷けり。九 また前に往く人々と、〔後ろに〕從ふ人々と叫び出でつつありき、云ひけるは、ホザナよ、主の名に於て來り給ふ者は、觀せられたる者かな。一〇 主の名に於て來る、我等の父ダビデの國は觀せられたるかな、至高き處にホザナよ。一一 かくてイエスはエロソルマに、また神殿に入り來り給ひて、すべての物を眺はし給ひ、時既に夕なりしかば、十二と共に出でてベタニヤに來り給へり。

一二 また明くる日に、彼等のベタニヤより出で來りしとき、彼は飢ゑ給へり。一三 かくて遙に葉ある無花果樹を見給ひて、彼は何かをその〔樹に〕見出だすこともあらんとて到り給へり。然るにその下に到り給ひしに、葉の外に何をも見出だし給はざりき。そは無花果の期にあらざりしが故なり。一四 乃ちイエス答へてこれに曰へり、今より後いつまでも、誰も汝の實を

嗾はざれ。また弟子等これを聞けり。一五 かくて彼等はエロソルマに來る。乃ちイエスは神殿に入り來り給ひて、神殿のうちにて賣る者と買ふ者とを逐ひ出だし、また兩替する者の臺と鴿を賣る者の腰掛とを倒し始め給へり。一六 また誰にても器を携へて神殿を通るを差しおき給はざりき。一七 また教へて彼等に云ひ給ひけるは、我が家はすべての國人のため禱の家と稱へらるべし、と錄されたるにあらずや、然るに汝等はこれを强盜どもの巢と爲せり。一八 然るに學者等と祭司長等とは聞きて、如何にして彼を亡ぼすべきかを索めたり。そは彼等は彼を懼れたればなり。そは群衆みなその敎に驚かされたるが故なり。

一九 かくて夕になりしとき、彼は市の外に出で往き給へり。

二〇 また夜明に往きがけに、彼等は根より枯れたる無花果樹を見たり。二一 されば〈ペテロ憶ひ出でて云ふ、ラビ、見給へ、汝の詛ひ給ひし無花果樹は枯れたり。二二 乃ちイエス答へて彼等に云ひ給ふ、神の信仰をもて。二三 誠にわれ汝等に云はん、誰にても此の山に、汝取り去られよ、且つ海に投げ入れられよ、といはんに、その心に疑なく、されど云ふことは應ふと信ずる者、彼には〔その如く〕あるべし。二四 此のゆへにわれ汝等に云はん、すべて何事にても汝等の祈りつつ求むることは受けたりと信ぜよ、されば汝等に〔その如く〕あるべし。二五 また汝等禱に立たんとき、何人に逆らひて如何なることのありとも、これを敎せ。是れ天に〔おはす〕汝等の父も、汝等の曲事を汝等に敎し給ふためなり。二六 されど汝等もし敎さずば、天に〔おはす〕汝等の父も、汝等の曲事を敎し給はざるべし。

二七 かくて彼等は復たエロソルマに來る。また神殿にて彼の歩み給ふとき、祭司長等と學者等と長老等と彼の許に來る。二八 かくて彼等は彼に云ふ、何の權にて此等の事を汝は爲すや。また此等の事を汝の爲すために、誰が汝に此の權を與へしや。二九 乃ちイエス答へて彼等に曰へり、我も一と言を汝等に問はん、されば我に答へよ、乃ち何の權にて此等の事を我は爲すかを、われ汝等に謂ふべし。三〇 かのヨハネのバプテズマは天よりなりしか、或は人よりか、我に答へよ。三一 然るに彼等己自らに對ひ勘考して、云ひけるは、我等もし天よりといはんか、是の故に何すれぞ汝等は彼を信ぜざりしや、と彼は謂ふならん。三二 されど我等もし人よりといはんか。彼等は民を懼れたり、そはすべての者、彼は實に豫言者なりきと、ヨハネを保ちたればなり。三三 かくて答へて彼等イエスに云ふ、我等知らず。乃ちイエス答へて彼等に云ひ給ふ、我も何の權にて此等の事を、我は爲すかを汝等に云はじ。

第十二章

また彼は喩にて彼等に話たり始め給へり、或る人葡萄園を仕立て、籬をめぐらし、また酒槽を堀り、また櫓を建てたり。かくてそれを農夫等に貸して遠國に往けり。二 かくて期に當り、彼は農夫等より葡萄の實のうちを受けんために、〔一人の〕奴僕を農夫等の許に使はせり。三 然るに彼等はこれを執へ、打ちて空しく歸せり。四 されば彼は復た他の奴僕を彼等の許に使はせり。然るにこれをも彼等はその頭を石ち、且つ辱しめて歸せ

り。五されば復た他の者を彼は使はせり。然るにこれをも彼等は殺せり。かくて多くの他の者を、或る者をば打ち、また或る者をば殺せり。六是の故に彼は尙ほその愛せらるる子一〔人〕ありければ、彼等は我が子を敬ふならんと云ひつつ、最終に彼を彼等の許に使はせり。七然るにかの農夫等、己自らに對ひていへり、此の者は世嗣なり、いざ來れ、我等これを殺さん、されば嗣業は我等のものたるべしと。八乃ち彼等はこれを執へて殺せり。かくて葡萄園の外に擲み出だせり。九是の故に葡萄園の主は何を爲すべきや。彼は到り、且つ農夫等を亡ぼすべし。かくて葡萄園を他の者に與ふるならん。一〇汝等は此の聖書をも讀まざるか。家を建つる人々の棄てたる石、此の者は隅の首石となれり。一一此の〔こと〕主より出でたり、されど我等の目には不思議なり。一二かくて彼等は彼を拘へんことを索めたれど、群衆を懼れたり。そは彼等は己に對ひて此の喩を曰へることを知りたればなり、乃ち彼を差しおきて彼等は去れり。

一三また彼等は言にて彼を捉ふるために、パリサイの人々とヘロデ黨のうちの或る者等とを彼の許に使はせり。一四乃ち彼等到りて彼に云ふ、師よ、我等汝は眞にておはすことを知る、されば誰一人汝に就きて心遣ひする者なし。そは汝は人の類を視給はず、されど眞理をもて神の道を敎へ給へばなり。頭稅をカイザルに納むるは律しきや、或ひは然らずや、我等納むべきか、或は納めざるべきか。一五然るに彼は彼等の僞を知りてこれに曰へり、何ぞ我を試むるや。我の〔それを〕見るために、デナリを我に持ち來れ。一六乃ち彼等持ち來れり。されば彼等に云ひ給ふ、此の形と銘とは誰のなるや。乃ち彼等いへり、カイザルの。一七かくてイエス答へて彼等に曰へり、カイザルの物はカイザルに、また神の物は神に納めよ。乃ち彼等は彼に驚けり。

一八また甦をあることなしと云ふサドカイの人々、彼の許に來る。かくて彼に問ふて云ひけるは、一九師よ、モヲゼはもし誰ぞその兄弟死にて妻を留き、且つ兒を遺さずば、彼の兄弟その妻を取り、且つ兄弟のために種を起すべし、と我等のために錄したり。二〇七〔人〕の兄弟ありき。一番めは妻を取りたれど、死にて種を遺さざりき。二一されば二番めはかの婦を取りたれど、死にて彼も種を遺さざりき。また三番めも等し。二二かくて七人かの婦を取りたれど、種を遺さず。すべての者の終に婦も死ねり。二三是の故に甦に於て彼等の起きしとき、彼は彼等のうち誰の妻たるべきや。そは七人彼を妻としたればなり。二四然るにイエス答へて彼等に曰へり、汝等は聖書をも神の力をも知らず、此のゆへに誤れるならずや。二五そは死人のうちより彼等の起つときは、娶らずまた嫁がず、されど天に在る使等の如くにあればなり。二六また死人に就きて、卽ち彼等の起くることは、モヲゼの卷のうち、柴につきての〔ことのうちに〕神は如何に彼に曰ひしかを汝等は讀まざるか、云ひ給ひけるは、我はアブラハムの神、またイサクの神、またヤコブの神なりと。二七彼は死人の神におはさず、されど生ける者の神〔におはします〕。是の故に汝等大に誤れり。

二八 かくて學者等のうちの一〔人〕進み來りて、人々の論じ合ふを聞き、彼の良く彼等に答へ給ひしことを見て、彼に問へり、すべての誡のうちの第一なるは孰れなるや。二九 乃ちイエス答へ給へり、すべての誡の第一は、イスラエルよ、聞け、主、我等の神は一なる主なり。三〇 されば汝の心の全きをもて、また汝の魂の全きをもて、また汝の思の全きをもて、また汝の力の全きをもて、主、汝の神を愛すべしと、是れ第一の誡なり。三一 また第二もそれと等し、汝の隣人を汝自身の如くに愛すべし。此等より大なる他の誡はあることなし。三二 かくてかの學者いへり、良きかな、師よ、汝神は一におはして、彼の外に他の〔神〕はあることなし、と眞理に循ひていへり。三三 また心の全きをもて、また識の全きをもて、また魂の全きをもて、また力の全きをもて彼を愛することと、己自身の如くに隣人を愛することとは、すべての燔祭と犧牲とに勝るなり。三四 乃ちイエス彼の悟れる答を見て、彼に曰へり、汝は神の國より遠からず。かくてもはや誰も敢て彼に問はざりき。

三五 またイエス神殿にて教へ給ふとき、答へて云ひ給へり、學者等は如何なれば、キリストをダビデの子なりと云ふや。三六 そはダビデ自ら聖なる靈に在りていひたればなり、主は我が主に曰へり、われ汝の敵を汝の足の足臺に据うるまで、我が右手に坐せよ。三七 是の故にダビデ自ら彼を主と云ふ、されば如何にして彼はその子ならんや。されば大なる群衆は喜びて彼に聞けり。

三八 また彼はその教のうちに云ひ給へり、學者等につきて視よ、彼等は衣裳を着て歩み、また市場にての挨拶、三九 また會堂のうちの上座、また晩餐に於ける上席を好む。四〇 彼等は寡婦の家を喰ひ盡し、かくて託に長く祈る。此等の者は尚ほ勝れる裁を受くるならん。

四一 またイエス賽錢函の對に坐し給ひて、群衆の錢を賽錢函に投げ入るる狀を看給ふ。かくて多くの富める者は多く入れたり。四二 また一〔人〕の貧しき寡到りて、レプタ二つを投げ入れたり、此は一コドラントなり。四三 乃ち彼は弟子等を召して、これに云ひ給ふ、誠にわれ汝等に云はん、此の寡、貧しき者は、賽錢函に投げ入るる者のすべてより多く入れたり。四四 そはすべての者はその豐なるところより投げ入れたれども、彼はその乏しきところより、己が有てるすべての物、その所帶を全く投げ入れたればなり。

第十三章

かくて彼の神殿より出で往き給ひしとき、弟子等のうちの一〔人〕云ふ、師よ、見たまへ、何たる石、また何たる建物よ。二 乃ちイエス答へて彼に曰へり、汝は此等の大なる建物を視るか。必ず崩されざる石の上に〔一つの〕石をも遺されざるべし。三 かくて彼の、神殿の對なるエライヲンの山の上に坐し給ひしとき、ペテロまたヤコブまたヨハネまたアンデレ、人を避けて彼に問ひけるは、四 我等に曰へ、何時此等の事あるべきや。また將に此等のすべての事の完うせられんとするとき、如何なる徵〔ある〕や。五 乃ちイエス彼等に答へて云ひ始め給へり、誰も汝等を惑はすことなきやう視よ。六 そは多くの者、我

なり、と云ひつつ來るべければなり。かくて彼等は多くの者を惑はさん。七また汝等軍と軍の風聞とを聞かんとき、ふためくこと勿れ。そは必ず發らざるべからざることなればなり。されど未だ終はあらず。八そは國人は國人に逆らひ、また國は國に逆らひて起り立つべければなり。またところどころに地震あるべく、また饑饉と難とあるならん。此等は陣痛の始「なり」。九また汝等己自らを視よ。そは人々汝等を議會に、また會堂に付すべければなり、汝等は打たるべし、また汝等は我がために彼等に證すべく、太守等と王等との前に据ゑられん。一〇かくて福音は必ず先づ、すべての國人に宣べられざるべからず。一一また人々汝等を連れ往きて付さんとき、何を話たるべきやと豫め心遣ひすること勿れ、また慮ること勿れ。されど何にても、その時汝等に與へらるる事、それを話たれ。そは話たる者は汝等にあらず、されど聖なる靈におはせばなり。一二また兄弟は兄弟を死に付し、また父は兒を「付さん」。かくて兒は双親に逆らひて起ち上り、且つこれを死罪に處すべし。一三また汝等は我が名のゆへにすべてより憎まれん。されど終まで耐へ忍ぶ者、此の者は救はるべし。

一四されど汝等は豫言者ダニエルより謂はれし、かの荒らす惡むべき者の、必ず「立つ」べからざる處に立つを見るとき、讀む者解せよ、そのときユダヤに在る者は山に逃れよ。一五また屋の上なる者は家に下り來る勿れ、またその家より何をも取り出ださんとて入り來る勿れ。一六また畠に在る者はその衣を取らんとて、後ろに「在る」物に歸る勿れ。一七されどその日に孕みたる者と、乳を哺ましむる者とは禍なるかな。一八されば冬、汝等の逃るることの發らざるやう祈れ。一九そはそれらの日に、神の創造し給ひし創造の初より今に至るまで、かくの如きは發りしことなく、「後も」必ず發らざる程の艱あるべければなり。二〇されば主もしその日を少なくし給はざりしならば、すべての肉は救はれざりしならん、されど彼の選び給ひし選ばれたる者のゆへに、その日を少なうし給へり。二一またそのとき誰ぞもし汝等に、見よ、キリストは此處に、或ひは見よ、其處に、といふとも信ずる勿れ。二二そはもし能ふべくんば、選ばれたる者をも惑はさんために、僭キリストと僭豫言者とは起り、且つ徴と奇跡とを與ふべければなり。二三されば汝等視よ。見よ、われ豫めすべての事を汝等に謂へり。二四されどそれらの日には、その艱の後に陽は暗くなり、また月はその光を與へず、二五また天のもろもろの星は隕ち、またもろもろの天に在る力は震はれん。二六またそのとき人々は大なる力と榮光とをもて、雲のうちに來る人の子を目のあたり見るべし。二七またそのとき彼はその使等を使はして、地の極より天の極に至るまで、四つの風にてその選ばれたる者を集め給はん。

二八されど無花果樹より喩を學べ、その枝既に柔かになりて葉のめぐむとき、汝等は夏の近づけることを知る。二九此の如く汝等も、此等の事の發るを見るときは、「その」近づきて門口にあることを知れ。三〇誠にわれ汝等に云はん、此等のすべての事の發るまで、必ず此の代は過ぎ去ることなかるべし。三一天と地とは過ぎ去らん、されど我が言は過ぎ去らじ。

三二 されどその日と時とに就きては、父の外に誰一人知る者なし、天に在る使等も子も〔知ること〕なし。三三 視よ、目を覺ましをれ、且つ祈れ。そは汝等期はいつなるかを知らざればなり。三四 〔卽ち〕遠國に往く人の、家を離るるとき、その奴僕おのおのに權と働とを與へ、また門守に目を覺ましをれ、と命ぜしが如し。三五 是の故に目を覺ましをれ。そは汝等家の主は夕か、或ひは夜半か、或ひは鷄鳴か、或ひは夜明か、いつ來るかを知らざればなり。三六 然らざれば俄に歸りて、彼は寢ぬる汝等を見出だすべし。三七 また我が汝等に云ふところはすべての者に云ふ〔なり〕、目を覺ましをれ。

第十四章

また逾越卽ち酵除の節會は二日の後なりき。かくて祭司長等と學者等とは、如何にしてか、詭計にて彼を拘へて殺さんと索めつつありき。二 されど彼等は云へり、節會のうちには爲さざれ、然らざれば民の騷あるべし。三 また彼のベタニヤにおはして、癩病者シモンの家にて席に着き給ひしとき、〔一人の〕婦、高價なる純粹のナルダの香油の〔入りたる〕蠟石の壺を持ち來れり。かくてその蠟石の壺を毀ちて、彼の頭に注げり。四 然るに或る者たち己自らに對ひて腹立てり、且つ云ひけるは、此の香油の無益なる費は何のためになるや。五 そはこれを三百デナリ餘に賣りて、貧しき者に與ふることを得たればなり。かくて彼等は婦を憤れり。六 然るにイエス曰へり、差しおけ。何ぞ汝等は彼を惱ましむるや。良き行を彼は我がために行へり。七 そは恒に貧しき者を汝等は汝等と共にもてば、いつにても汝等の欲するとき、これに宜しき〔事〕を爲すことを得れど、我を恒に汝等はもたざればなり。八 彼は竭したる事を爲せり。彼は葬のために、我が體に油ぬらんとて豫め備へたり。九 誠にわれ汝等に云はん、全世界いづれにても此の福音の宣べらるる處にて、此の〔婦の〕爲しし事もその憶ひ出のために話たらるべし。一〇 かくて十二のうちの一〔人〕なるイスカリオテのユダ、彼を彼等に付すために祭司長等の許に去れり。一一 されば彼等は聞きて喜び、且つ銀子を與ふることを約したり。乃ち彼は如何にしてか、機好く彼を付さんことを索めたり。

一二 また酵除の最初の日に人々逾越を屠りしとき、弟子等彼に云ふ、汝は逾越を喰ひ給ふために、何處に去つて我等のこれを備ふるを欲し給ふや。一三 乃ち彼は弟子等のうちの二〔人〕を使はし、且つこれに云ひ給ふ、市に往け。されば水瓶を担へる人は汝等に逢ふべし。それに從へ。一四 またいづこにてもその入り來るところに〔入りて〕、その家の主人にいへ、師は云ひ給ふ、我が弟子等と共に逾越を我が喰ふべき處の假宿は何處にあるやと。一五 されば彼は整へて備へたる、大なる二階座敷を汝等に見はすべし。我等のためにそこに備へよ。一六 乃ち弟子等去つて市に到れり。かくて彼等に曰ひし如く見出だせり。乃ち彼等は逾越を備へたり。

一七 かくて夕になりしとき、彼は十二と共に來り給ふ。一八 また彼等の席に着きて食しつつありしとき、イエス曰へり、誠にわれ汝等に云はん、汝等のうちの一〔人〕我と共に食する者、我を付すべしと。一九 乃ち彼等は哀しみ、且つ一人一人彼に云ひ始めたり、或ひは我か、また

他の者、或ひは我か。二〇 然るに彼答へて彼等に曰へり、十二のうちの一〔人〕、我と共に皿のうちに浸す者〔なり〕。二一 如何にも人の子はこれに就きて錄されたる如くに往く。されど人の子を付すかの人は禍なるかな。かの人はもし生まれざりしならば良かりき。

二二 また彼等の食しつつありしとき、イエスはパンを取り祝して擘き給へり。かくて彼等に與へ、且つ曰へり、取れ、喰へ、此は我が體なり。二三 また杯を取り、感謝して彼等に與へ給へり。乃ち彼等はみなそれより飲めり。二四 かくて彼等に曰へり、此は多くの者のために流す、新契約の我が血なり。二五 誠にわれ汝等に云はん、此の後かの日、神の國に於て新しきものを飲むときまで、葡萄の實より〔のものを〕我は必ず飲まじと。

二六 かくて讃美を歌ひつつ彼等はエライヲンの山にまで出で來れり。二七 かくてイエス云ひ給ふ、汝等はみな此の夜のうちに我に躓かさるるならんと。そは、われ牧者を擊たん、されば羊は散らさるべし、と錄されたればなり。二八 されどわれ起きて後、汝等に先立ちてガリラヤに往くべし。二九 然るにペテロ述べけるは、假令みな躓かさるとも、我のみは然らず。三〇 乃ちイエス彼に云ひ給ふ、誠にわれ汝に云はん、今日此の夜のうち、鷄の二たび鳴くより前に、三たび汝は我を否むべしと。三一 然るに彼は繰り返し繰り返し云へり、假令われは汝のために、必ず死なざるべからざることありとも、決して汝を否まじ。乃ち彼等もみな同じ樣に云へり。

三二 また彼等はゲッセマネと名くる處に來れり。然るに彼は弟子等に云ひ給ふ、我が祈るうち此處に坐せよ。三三 かくて彼はペテロとヤコブとヨハネとを己と共に携へ〔往き〕給ふ。また彼は甚く駭き、且つ頂垂れ始め給へり。三四 かくて彼等に云ひ給ふ、我が魂は死なんばかりにいと哀し、此處に留まれ、且つ目を覺ましをれ。三五 かくて少しく進み往き、地に伏して祈り給へり、もし能ふべくんば、時は彼より過ぎ去りたらんことを。三六 また云ひ給へり、アバ、父よ、汝にはすべての事能はざるなし。此の杯を我より取り去り給へ。されど我が欲する事にあらず、されど汝の事を〔爲し給へ〕。三七 かくて彼は來り、且つ寢ぬる彼等を見出だし給ふ。さればペテロに云ひ給ふ、シモン、汝は寢ぬるか。汝は一と時も目を覺ましをること能はざりしか。三八 目を覺ましをれ、且つ試に入り來らざるやう祈れ。是れ靈は如何にも切に望めども、肉弱きなり。三九 かくて復た去つて、同じ言をいひつつ彼は祈り給へり。四〇 かくて、歸りて、彼は復た寢ぬる彼等を見出だし給へり。そはその目疲れたればなり。乃ち彼等は何んと彼に答ふべきやを知らざりき。四一 かくて彼は三たび來り、且つ彼等に云ひ給ふ、此の餘は寢ねよ、且つ休め。充分なり。時は到れり。見よ、人の子は罪人等の手に付さるるなり。四二 起きよ、いざ往くべし。見よ、我を付す者は近づけり。

四三 かくて直に彼の尙ほ話たりておはししとき、十二のうちの一〔人〕なるユダ詣れり。また彼と共に大なる群衆は劍と棒とをもちて、祭司長等及び學者等幷に長老等より〔來れり〕。

四四 また彼を付しつつありし者、合圖を彼等に與へて云ひけるは、我が接吻する者は彼なり。それを拘へて、確と連れ往け。四五 乃ち彼は到りしとき、直に彼に進み來りて云ふ、ラビ、ラビ。かくて幾度も彼に接吻せり。四六 乃ち人々手を彼に掛けて拘へたり。

四七 されば傍に立てる者のうちの一〔人〕、劍を引き拔きて、祭司長の奴僕を擊ち、且つその耳を取りはなせり。四八 かくてイエス答へて彼等に曰へり、汝等は我を捕へんとて强盜に對ふが如く、劍と棒とをもて出で來れるや。四九 日に循ひて我は敎へつつ、神殿にて汝等と偕にありしに、汝等は我を拘へざりき。されどこれ聖書の成就せらるるためなり。五〇 かくてすべて〔の者〕彼を差しおきて遁れたり。五一 また或る一〔人の〕若者、素裸の上に麻布を纏ひて彼に從へり。然るに若者等これを拘へたり。五二 されば彼は麻布を措きて、素裸にて彼等より遁れたり。

五三 かくて彼等はイエスを祭司長の許に連れ往けり。乃ち祭司長等及び長老等幷に學者等すべて集まり來れり。五四 またペテロは遠くより、祭司長の中庭のうちにまで彼に從ひ入れり。かくて彼は使丁等のうちに坐し、且つ煖まりつつ光に對ひてありき。五五 かくて祭司長等と全議會とはこれを死罪に處せんために、イエスに逆らひて證を索めたり。されど見出ださざりき。五六 そは多くの者彼に逆らひて、僞の證を立てたれども、均しくその證はあらざりければなり。五七 かくて或る者起ちて彼に逆らひ、僞の證をなせり、云ひけるは、五八 我等は彼が、我は手にて造れる此の聖所を毀つべし、かくて三日にて、手にて造らざる他のを我は建てん、と云ふを聞けりと。五九 されどその證も均しくあらざりき。六〇 かくて祭司長は眞中に立ちてイエスに問へり、云ひけるは、汝は何をも答へざるか。此等の者の汝に逆らひて證するは何ぞや。六一 されど彼は默して何をも答へ給はざりき。復た祭司長問へり、且つ彼に云ふ、汝はキリスト、祝せられます者の子なるや。六二 乃ちイエス曰へり、我なり。また汝等は力の右手に坐し、かくて天の雲のうちに來る人の子を目のあたり見るべし。六三 乃ち祭司長、己が上衣を裂きて云ふ、何ぞ此の上に證人を要することあらんや。六四 汝等は冒を聞けり。汝等には如何に現はるるや。乃ち彼等はすべて、彼を死罪に當るものなりと定めたり。六五 かくて或る者は彼に唾し、またその顏を被ひ、またこれを拳にて搏ち、また豫言せよ、と云ひ始めたり。また使丁等は掌にて彼を批てり。

六六 またペテロは中庭にて下にありしとき、祭司長の婢のうちの一〔人〕來る。六七 かくて煖まるペテロを見しとき、彼をつらつら視て云ふ、されば汝はナザレ人なるイエスと共に在りき。六八 然るに彼は否めり、云ひけるは、我は知らず。また何を汝は云ふかをも解せず。かくて彼は庭口まで外に出で來れり。乃ち鷄鳴けり。六九 かくて婢彼を見て復た傍に立てる人々に、此の者は彼等のうちなり、と云ひ始めたり。七〇 然るに彼は復た否めり。かくて暫くして、復た傍に立てる人々ペテロに云へり、眞に汝は彼等のうちなり。そは汝もガリラヤ人にて、汝の話は等しければなり。七一 然るに、我は汝が云ふ此の人を知らず、と彼は詛ひ且つ誓ひ始

めたり。七二 かくて二たび鷄鳴きぬ。されば**ペ**テロは鷄二たび鳴く以前に汝は三たびわれを否むべし、と**イ**エスの彼に曰ひし詞を憶ひ起せり。また思ひ到りて彼は泣けり。

第十五章

かくて夜明に及びて直に祭司長等は、長老等及び學者等卽ち全議會と共に協議をなし、**イ**エスを縛りて連れ往き、且つ**ピ**ラトに付せり。二 さればピラト彼に問へり、汝は**ユ**ダヤ人の王なるや。乃ち彼答へて曰へり、汝は云ふ。三 また祭司長等しきりに訴へたり。四 かくて**ピ**ラトは復た問へり、云ひけるは、汝は何をも答へざるか。彼等は如何に多くの事を汝に逆らひて證するかを見よ。五 されど**イ**エスはもはや何をも答へ給はざりき。さればピラトを驚かせり。六 また節會に當りて彼は誰にても、人々の求むる一〔人の〕囚人を釋したり。七 かくて一揆に組みしたる者と共に囚へられたる**バ**ラバと云ふ者ありき。彼等は一揆のときに人殺を爲しし者なり。八 されば群衆叫び出でて、彼が常に爲したる如く〔爲さんこと〕を求めたり。九 さればピラト彼等に答へたり、云ひけるは、汝等は**ユ**ダヤ人の王を汝等に我が釋さんことを欲するや。一〇 そは彼は嫉のゆへに祭司長等の彼を付ししことを知りたればなり。一一 然るに祭司長等は、彼の反つて**バ**ラバを彼等に釋すやう、群衆を煽り立てたり。一二 さればピラト答へて復た彼等にいへり、是の故に汝等は**ユ**ダヤ人の王と汝等の云ふ者に、何を我が爲さんことを欲するや。一三 然るに彼等復た叫び出でたり、彼を十字架につけよ 一四 乃ち**ピ**ラト彼等に云へり、然らば何の惡しき〔こと〕を彼は爲ししや。されど彼等皆々叫び出だせり、彼を十字架につけよ。一五 乃ち**ピ**ラトは群衆のために、その滿足とするところを爲さんと思ひて、**バ**ラバを釋せり。かくて鞭ちて〔のち〕、十字架につけられ給ふために、**イ**エスを付したり。

一六 かくて兵卒等は彼を中庭の內に、卽ち廳に連れ往き、且つ全隊を召し集めたり。一七 かくて彼等は、紫色〔の袍〕を彼に纏はせ、また茨の冠を編みてかむらしめたり。一八 かくて彼等は、慶し、**ユ**ダヤ人の王、と挨拶し始めたり。一九 また彼等は葦にて彼の頭を打てり。また彼に唾せり。また膝を屈めて彼に平伏せり。二〇 また彼等は嘲弄せしとき、紫色〔の袍〕を剝ぎ取りて己がものなる彼の衣を着せたり。かくて十字架につけんとて、彼を連れ出だせり。二一 然るに**ア**レキザンドロと**ル**フの父なる**ク**レネ人**シ**モンなる者、畠より來りて通りかかりければ、彼等は彼の十字架を負ふやうこれを强ひたり。

二二 かくて彼等は**ゴ**ルゴタ、卽ち髑髏の場所なる處に彼を連れ往きて、二三 沒藥を和ぜたる葡萄酒を彼に飲ましめたり。されど彼は受け給はざりき。二四 かくて彼を十字架につけし〔後〕、彼等は誰が何を取るべきやと籤を取りて、彼の衣を頒てり。二五 また第三時なりき、乃ち彼等は彼を十字架につけたり。二六 また、**ユ**ダヤ人の王、と彼の訴狀は書き上げられたり。二七 また彼と同に彼等は二〔人〕の强盜を、一を彼の右手に、また一をその左手にて十字架につく。二八 かくて、されば彼は不法者のうちに數へられたり、と云ふ聖書は成就せられたり。

二九 また傍を往く人々彼を冒し、その頭を動かし、且云ひけるは、ああ、聖所を毀ち且つ三日にて建つる者よ。三〇 汝自身を救へ、且つ十字架より下りよ。三一 また祭司長等も等しく、學者等と共に互に嘲弄して云へり、彼は他を救へり、己自らを救ふこと能はず。三二 キリスト、イスラエルの王は我等の見て信ずるために、今十字架より下るべし。また同に十字架につけられたる者どもも彼を誘れり。三三 また第六時になりしとき、遍く地の上暗くなりて、第九時までに〔至れり〕。三四 また第九時にイエスは、エロイ、エロイ、ランマ、サバクタニ、と云つつ大聲に叫び給へり、即ち譯すれば、我が神、我が神、何とて我を見捨て給ひしや、となり。三五 されば傍に立てる者のうちの或る者聞きて云へり、見よ、彼はエリヤを呼ぶ。三六 乃ち一〔人〕走り〔往き〕て酢を海綿に滿たし、それを葦につけて、彼に飲ましめたり、云ひけるは、差しおけ、エリヤ來りて彼を取り下ろすや否や、我等をして見せしめよ。

三七 かくてイエス大聲を放ちて息絶え給へり。三八 また聖所の幔は上より下まで、二つに裂けたり。三九 また彼に對ひて傍に立ちたる百人長は、かく叫び出でて、彼の息絶え給ひしを見て、いへり、眞に此の人は神の子におはしき。四〇 また婦等も遠くより看てありき。そのうちにはマグダラのマリア、また小ヤコブとヨセとの母なるマリア、またサロメもありき。四一 彼等は彼のガリラヤにおはししとき、これに從ひ且つ事へたる者にて、他に彼に伴ひてエルサレムに上りし多くの〔婦等もありき〕。

四二 かくて既に夕となりしとき、備日即ち安息日の前日なりしゆへに、四三 アリマタよりの者にて、貴き議員なるヨセフ到れり。彼は己自らも神の國を待ち望みつつありき。彼は憚からずピラトの許に入り來れり、且つイエスの體を求めたり。四四 さればピラト、彼は既に死にしかと異しめり。乃ち百人長を召して、彼の死にて時を經しや否やを問へり。四五 かくて彼は百人長より〔それを〕知りて、その體をヨセフに與へたり。四六 乃ち彼は麻布を持ち來りたれば、彼を取り下ろして、その麻布にて卷けり。かくてこれを岩に鑿りたる墓のうちに置けり。また石をその墓の入り口に轉ばしたり。四七 またマグダラのマリアまたヨセの〔母なる〕マリアは彼の置かれ給ひし處を看たり。

第十六章

かくて安息日の過ぎければ、マグダラのマリア及びヤコブの〔母〕なるマリア并にサロメは、到りて彼に油ぬらんために、香料を買へり。二 また週の首〔の日〕の朝甚だ早く、陽の昇りたるとき、彼等は墓に來れり。三 彼等は己自らに對ひて云へり。誰ぞ墓の入り口より石を我等のために、轉ばし去るならんか。四 かくて彼等は視上げしに、石の轉ばし去られたるを看る、そは一方ならず大なる〔石〕なりければなり。五 また墓に入り來りて、彼等は白き衣裳を着て、右の方に坐する〔一人の〕若者を見たり。されば彼等は甚く駭けり。六 然るに彼は彼等に云ふ、駭く勿れ。汝等は十字架につけられ給ひしナザレ人なるイエスを索む。彼は起き給へり、此處におはさず。見よ、これ彼を置きしところの場所〔な

リ」。七されど往け。彼の弟子等とペテロとにいへ、彼は汝等に先立ちてガリラヤに往き給ふと。彼處にて汝等は目のあたり彼を見るべし、彼の汝等に曰ひしが如し。八されば彼等は出で來りて、速に墓より遁れたり。かくて慄と駭とは彼等に襲きたり。されば誰にも何事をもいはざりき。そは懼れたればなり。

九また週の首〔の日〕夜明に起ちて彼は先づ、七つの惡鬼を逐ひ出だし給ひし、マグダラのマリアに現はれ給へり。一〇彼は往きて、悲しみ且つ泣くところの、彼と共に在りし人々に報じたり。一一されど彼等は彼の生きておはして、かの婦に看られ給ひしことを聞きながら信ぜざりき。一二また此等の事の後、彼等のうちの二〔人〕田舍に往かんとて歩めるとき、彼は別の姿にてこれに顯はれ給へり。一三されば彼等は去つて、餘の人々に報じたり。されど彼等は彼等を信ぜざりき。一四その後彼等の席に着きしとき、彼等十一に彼は現はれ給ひて、その信仰なきと、心の頑なるとを非難し給へり。そは起き給ひし彼を看たる人々を、彼等は信ぜざりしが故なり。一五かくて彼等に曰へり、遍く世界に往き、福音をすべての創造せられたる者に宣べよ。一六信じ且つバプテズマせられたる者は救はるべし、されど信ぜざる者は罪に定められるべし。一七また信じたる者には此等の徴從ふべし、我が名に於て惡鬼を逐ひ出だすべし、舌葉にて新しき事を彼等は話たるべし。一八彼等は蛇を攫み上ぐべし。また死ぬべきものを飲むとも、必ず彼等を害はじ。病身なる者の上に彼等は手を按かん、かくて彼等は良くなるべし。

一九是の故に主は彼等に話たり給ふうちに、天に擧げられ給へり。かくて神の右手に坐し給へり。二〇かくて彼等は出で來りて遍く〔福音を〕宣べたり。主は彼等と同に働き給ひ、且つこれに從ふ徴によりて言を堅ふし給ひたり。アメン。

マルコ傳聖福音　終り

ルカ傳聖福音

第一章

我等のうちに篤く信ぜられたる事柄に就きての物語を、二初より言の目擊者、また使丁なりし彼等が、我等に傳へし如くに書き列ねんと、多くの人々企てしが故に、三貴きテオピロよ、我にも始めよりすべての事柔かに曉られたれば、四汝が口授せられたる言の確なることを、汝の柔かに知らんために、次第をもてこれを汝に書き贈るは善きことなりと思へり。

五ユダヤの王ヘロデの日に、アビヤの組の一〔人の〕祭司、その名はザカリアなる者いでたり。その妻はアロンの娘のうちにて、名はエリザベツ。六また彼等は双方とも、主のすべての誡と定とのうちに、責むべきところなく歩みて、神の面前に義しき者なりき。七またエリザベツは不生女なりし故に、彼等に兒なく、且つ双方ともその日に於て邁みたる者なりき。八かくて彼は己が組の順番に於て、神の前に祭司の務をなすときにかくありき。九祭司の務の例に循ひしに、彼は主の聖所に入り來りて、香を焚くべき籤に當りたり。一〇かくて香の時に、民の大衆みな外にて祈りつつありき。一一然るに主の使、香壇の右手に立ちて、彼に現はれたり。一二されば**ザ**カリア見て當惑せり、かくて懼は彼の上に落ちたり。一三されど天使彼に對ひて

いへり、ザカリアよ、懼るを勿れ。そは汝の願は聞き入れられたるが故に、汝の妻エリザベツ子を生み、且つ汝はその名をヨハネと呼ぶべければなり。一四 また汝に喜また歡たるべく、多くの人もその出生のために喜ばん。一五 そは彼は主の面前にて大なる者たるべければなり。また彼は葡萄酒と強き酒とを必ず飲まじ、且つ母の胎よりきへ聖靈にて滿たされん。一六 また彼はイスラエルの子等の多くの者を主に、彼等の神に歸へすべし。一七 また彼は父の心を兒に、また順はざる者を義しき〔人〕の慧に歸へし、主のために整へられたる民を用意せんとて、エリヤの靈と力とをもて彼の面前にて先に往かん。一八 然るにザカリア天使に對ひていへり、何によりて我これを知るべきや。そは我は老人にて我が妻もその日に於て邁みたる者なればなり。一九 乃ち天使答へて彼にいへり、我は神の面前に立つガブリエルなり。また我は汝に對ひて話たり、且つ汝に福音＝此等の事を宣傳ふるために使はされたり。二〇 されば見よ、汝は物いへずなりて、此等の事の發らん日まで話たること能はざるべし。そは期いたりて成就せらるべき我が言を信ぜざりし故なり。二一 かくて民はザカリアを俟てり。また彼等は聖所のうちに彼の久しきことを異しめり。二二 かくて彼は出で來りしとき彼等に話たること能はざりき。されば彼等は聖所のうちにて異象を彼の親たることを審かに知れり。かくて彼は首にて示しつつありて引き續き啞なりき。二三 またかくありき彼の奉仕の日の滿ちしとき彼は己が家に去りたり。二四 此等の日の後、彼の妻エリザベツ孕みければ己自らを隱すこと五ケ月、云ひけるは、

二五 主は人々のうちなる我が謗を取り去らんとて、我を顧み給ふ日にかく我に爲し給へりと。

二六 またその六ケ月めに、神より天使ガブリエルはナザレと名くるガリラヤの市に、二七 ダビデの家のヨセフと名くる人に、婚約せる處女の許に使はされたり。またその處女の名はマリア〔なりき〕。二八 乃ち天使彼の許に入り來りていへり、慶し、惠まれたる者よ、主は汝と共に〔おはす〕、汝は婦のうちにて祝せられたる者〔なり〕。二九 然るに彼は見て、その言に當惑せり、且つ此の挨拶は如何なる事なるやと勘考しつつありき。三〇 乃ち天使彼にいへり、マリアよ、懼るる勿れ。そは汝は神の前に惠を見出だしたればなり。三一 されば見よ、汝は孕みて子を產み、且つその名をイエスと呼ばん。三二 此の者は大〔なる者〕たるべく、また至高者の子と稱へられ給はん、且つ主、神は彼にその父ダビデの位を與へ給ふべし。三三 されば彼はヤコブの家を永まで治むべく、またその國の終あらざるべし。三四 然るにマリア天使に對ひていへり、われ未だ夫を知らざれば、如何にして此の事あるべきや。三五 乃ち天使答へて彼にいへり、聖靈汝の上に來り給はん、また至高者の力汝を蔽ふべし。かるが故にその生まるる聖なるものも、神の子と稱へられ給ふべし。三六 また見よ、汝の親戚エリザベツ、彼も老年にて子を孕めり。かくて此の者は不生女と呼ばれし彼に、〔今〕六ケ月めなり。三七 そは神に添はばすべての詞、能はざることなければなり。三八 乃ちマリアいへり、見よ、〔我は〕主の奴婢〔なり〕、汝の詞に循ひて我に應へかし。かくて天使は彼より去れり。

三九 またマリアはそれらの日に起ち上り、急ぎて山里に、ユダの市に往けり。四〇 かくて彼はザカリアの家に入り來り、且つエリザベツに挨拶せり。四一 然るにエリザベツ、マリアの挨拶を聞きしときかくありき、その懷兒は彼の胎のうちにて跳れり。またエリザベツは聖靈にて滿たされ、四二 且つ大聲に叫び出でていへり、汝は婦のうちの祝せられたる者、また汝の胎の實も祝せられたる者〔なり〕。四三 されば此の事我にいづこよりぞや。我が主の母の我が許に來らんとは。四四 そは見よ、汝の挨拶の聲の我が耳に來りしとき、我が胎のうちなる嬰兒は歡びて跳りたればなり。四五 されば信ぜし者は福なり。そは主より彼に話たり給ひしことは遂げらるべければなり。

四六 かくてマリアいへり、我が魂は主を崇め、四七 また我が靈は我が神、我が救主に在りて歡べり。四八 そは彼はその奴婢の卑をも注めて視給ひしが故なり。そは見よ、今より代々、すべて我を福なる者とすべければなり。四九 そは力ある者我に大なる事を爲し給ひたればなり。さればその名は聖、五〇 またその慈は代々の代々に至るまで、彼を畏るる者に〔及ばん〕。五一 彼はその腕のうちの勢を顯はして、心の思の傲慢なる者を散らし、五二 勢ある者を位より下ろし、また卑しき者を高め、五三 飢ゑたる者を善きものにて滿たし、また富める者を空しきに歸し給へり。五四 彼は我等の先祖等に對ひて話たり給ひし如く、五五 永にアブラハムとその種とを慈むことを憶ひ出で給ひて、その僕イスラエルを扶け給へり。五六 またマリアは三月ばかり彼と同に居れり。かくて彼の家に歸りたり。

五七 かくてエリザベツは出產すべき期滿ちて、子を生めり。五八 されば隣の人々幷に彼の親戚等、主がその慈を彼に大にし給ひしことを聞きて、彼と同に喜べり。五九 かくて八日めにかくありき、彼等は幼兒に割禮せんとて來れり。またその父の名に因みてザカリアと呼ばんとせり。六〇 然るにその母答へていへり、否。されどヨハネと稱へらるべし。六一 乃ち彼等は彼に對ひていへり、汝の親戚のうちには、誰も此の名にて呼ばるる者なしと。六二 かくて彼等は何と彼を呼ばるることを欲するかを、その父に首にて問へり。六三 乃ち彼は書き板を求め、書きて云ひけるは、彼の名はヨハネなり。されば みな異しめり。六四 また彼の口、忽ち開かれ且つその舌は〔釋け〕たれば、神を祝しつつ話たれり。六五 されば懼は彼の圍に住めるすべての者の上に發れり。またすべて此等の事は遍くユダヤの山里に話たられたり。六六 またすべて〔これを〕聞ける人々、心にとめて云ひけるは、されば此の幼兒は何にてあるならん。また主の手は彼と共にありき。六七 かくて彼の父ザカリア、聖靈にて滿たされ、且つ豫言して云ひけるは、六八 主、イスラエルの神は祝せられます者かな。そはその民を顧み、且つ贖をなし給ひしが故なり。六九 即ち我等のために、その僕ダビデの家に救の角を起し給ひたり。七〇 永より聖なる豫言者等の口によりて話たり給ひしが如し。七一 〔是れ〕我等の敵より、また我等を憎むすべての手よりの救〔なり〕。七二 〔是れ〕我等の先祖等に慈を施し、またその聖なる契約を憶ひ

出で給ひて〔なり〕。七三〔こは〕我等の父アブラハムに對ひて、矢ひ給ひしところの誓〔にて〕七四〔我等は〕我等の敵の手より援はれて、懼なく、七五我等の生のすべての日、彼の面前にて聖と義とをもて服事することを得しめんとて〔なり〕。七六されば汝、幼兒よ、汝は至高者の豫言者と稱へらるるならん。そは主の道を備ふるために、その顏に先んじて往き、七七彼の民に、彼等の罪の赦に於ける救の知識を與へんとすればなり。七八我等の神の憐の情により、その慈にて、朝日の光は上より我等を顧み、七九暗と死の陰とに坐する者を照らし、平和の道に我等の足を導かん。八〇かくて幼兒は成長し、且つ靈に於て强められたり。また彼はイスラエルに對ひて見はるる日まで、荒野に在りき。

第二章

またそれらの日にかくありき、世界のすべて〔の人〕を登錄せらるべき令、カイザルアウグストより出で來れり。二此の戸籍登錄はクレニオがシリヤの太守たりしとき、最初にありき。三さればすべて〔の人々〕登錄せらるるためにおのおの己が市に往けり。四かくてヨセフもナザレの市を出でてユダヤに、ベツレヘムと呼ばるるダビデの市にまで上れり。〔これ〕彼はダビデの家また族につきてありしゆへに、五妻として彼に婚約せる、身重なりしマリアと同に登錄せられんとてなり。六かくて彼等の彼處に在りし〔時〕にかくありき、彼の出産の日は滿たされたり。七かくて彼は長子なるその子を産めり。されば産衣に包みて馬槽のうちに臥させたり。是れ彼等のために、假宿に場所なかりしが故なり。

八また牧者等この地にて、その群のために夜の時刻を衞りながら、野に宿りつつありき。九然るに見よ、主の使その傍に立ち、且つ主の榮光彼等を繞り照らしたり。されば彼等は大なる懼をもて懼れたり。一〇然るにかの天使、彼等にいへり、懼るる勿れ。そは見よ、われ汝等に福音―此の民すべてに及ばんとする大なる喜を宣傳ふればなり。一一即ち今日ダビデの市に於て、汝等のために救主生まれ給へり、彼は主なるキリストなり。一二されば汝等産衣に包まれて馬槽に臥し給ふ嬰兒を見出ださん、これその徵なり。一三また忽ち天なる軍勢の大衆、神を讃美しつつ、かの天使と同に現はれ、且つ云ひけるは、一四至高き處には榮光神に〔あれ〕、また地上に平和、人には喜悅〔あれ〕。一五かくて天使等の彼等を離れて天に去りしときかくありき、即ち牧者等互にいへり、いざベツレヘムに到り、且つ發れりと主の我等に知らしめ給ひし此の詞を見ん。一六乃ち彼等は急ぎ到りて、マリアとヨセフ、また馬槽に臥し給ふ嬰兒を見出だせり。一七かくて見し後、彼等は此の幼兒に就きて話たられたる詞を弘く知しめたり。一八されば〔これを〕聞ける人々みな、牧者等によりて話たられたる事に就きて異しめり。一九されどマリアはすべて此等の詞を護りて、その心のうちに思ひめぐらせり。二〇また牧者等は聞き、また見しところ、彼等に對ひて話たられたる如くなる、すべての事のために神を頌めつつ、また讃め歌ひつつ歸りたり。

二一かくて幼兒に割禮すべき八日の滿ちしとき、彼の名はイエスと稱へられたり。是れ彼の

未だ胎に宿らざる先に、天使により稱へられし〔名〕なり。

三二 またモヲゼの掟に循ひて、淨の日の滿ちしとき、彼等は主に獻げんがために、彼をエロソルマに連れ往けり。三三 〔是れ〕主の掟に、胎を開きし男子はすべて、主に對して聖なる者と稱へらるべし、と錄されたるが故なり。三四 また主の掟に、山鳩の一番、或ひは家鴿の雛二つ、と謂はれたるところに循ひて、獻げ物を供へんため〔なり〕。

二五 また見よ、エルサレムに人ありき、その名はスメオン。また此の人はイスラエルの慰めらるるを待ち望める義しき且つ敬虔なる者にて、聖靈彼の上におはせり。二六 また彼は聖なる靈より、主のキリストを見る以前に、死を見ざるべく誥を蒙れり。二七 かくて彼は靈に在りて神殿に入り來りしに、適々双親は掟の例に循ひて爲すために、幼兒イエスを連れ入るるに際したれば、二八 彼もこれをその腕に受けて神を祝し、且ついへり、二九 至上の權をもち給ふ者よ、今汝の詞に循ひて、汝の奴僕をして平和に〔世をば〕去らしめ給ふ。三〇 そは我が目は汝の救を見たればなり。三一 〔これ〕此の民すべての顏の前に備へ給ひしところ〔にて〕、三二 國人の默示の光、また汝の民イスラエルの榮光〔なり〕。三三 さればヨセフと彼の母とは、彼に就きて語たられしことを異しみつつありき。三四 またスメオン彼等を祝し、且つ彼の母マリアに對ひていへり、見よ、此の者はイスラエルのうちの多くの者の、倒るることと起ることとのため、また云ひ逆らひの徵のために置かれ給ふ。三五 また汝につきては、長劍汝の魂をも貫き往かん。

是れ多くの人の心の勘考の啓示せらるるためなり。

三六 またアセルの族のパヌエルの娘なる、アンナと云ふ豫言者ありき。彼はその日に於て多く適みたる者なりしが、その處女たる頃より夫と共に七年存へたり。三七 また彼は八十四年になれる程の寡にて、神殿より離れず、斷食と祈願とをもて、夜も日も〔神に〕服事しつつありき。三八 かくて彼はその時、つかつか來りて讃美を主に捧げたり。またエルサレムに於ける贖を待ち望むすべての人々に、彼に就きて話たれり。

三九 かくて彼等は主の掟に循ひてすべての事を終りたれば、ガリラヤに、己が市なるナザレに歸りたり、四〇 かくて幼兒は成長し、また靈に於て强く、智慧をもて滿たされ給ひ、且つ神の惠はその上にありき。

四一 また彼の双親は年に循ひ、逾越の節會にエルサレムに往けり。四二 かくて彼の十二歳になり給ひしとき、彼等は節會の例に循ひてエロソルマにのぼりしが、四三 日數を完うしたれば、彼等の歸りしとき、童イエスはエルサレムに殘り給へり。されどヨセフと彼の母とは〔これを〕知らざりき。四四 されば路連のうちに彼はあることと想ひつつ、彼等は一日路來れり。かくて親戚のうちに、また知合の人々のうちに彼を索めたり。四五 されど見出ださざりければ、彼を索めつつ彼等はエルサレムに立ち歸れり。四六 かくて三日の後にかくありき、彼等は彼が神殿にて、教師等の眞中に坐し、且つ聞き且つ問ひつつおはすを見出だせり。四七 また聞く者

みな、その讖と答とに驚かされき。四八 乃ち双親彼を見て駭かされたり。かくて母、彼に對ひていへり、兒よ、何ぞかく我等に爲ししや。見よ、汝の父もわれも悲しみて汝を索めつつありき。四九 然ろに彼等に對ひて彼曰へり、我を索めつつありしとは何ぞや。我は我が父の事のうちに必ずあらざるべからざるを知らざるか。五〇 然るに彼等はその話たり給ひしところの詞を悟らざりき。五一 かくて彼は彼等と共に下り、且つナザレに到りて彼等に服ひておはせり。されば彼の母はすべて此等の詞を、その心のうちに護りたり。五二 かくてイエスは智慧にも身丈にも、他に勝りて進み給ひ、また神と人とに寵られ給ひぬ。

第三章

かくてポンテオピラトはユダヤの太守たり、またヘロデはガリラヤの分封の主にして、その兄弟ピリポはイツリヤ及びテラコニテ地方の分封の主たり、またルサニヤはアビレネの分封の主たり、アンナとカヤパの祭司長たりし、二テベリオカイザルの治世の第十五年に於て、神の詞は荒野にて、ザカリヤの子なるヨハネに來りたり。三されば彼は罪の赦に至る悔ひ改めのバプテズマを宣べつつ、ヨルダンの圍の地方すべてに到れり。四豫言者イザヤの言の卷に錄されたる如し、云ひけるは、荒野に於ける叫びの聲「あり」、主の道を備へよ、その道筋を直く爲せ。五諸の谷は埋められ、また諸の山と岡とは卑くせられん。また曲りたるは直く、險しきは坦かなる道となるならん。六かくてすべての肉は神の救を目のあたり見ん。七是の故に彼よりバプテズマせらるるために、出で往ける諸群衆に彼云へり、蝮のよ、齎誰が汝等に來らんとする怒より遁るることを示ししや。八是の故に悔ひ改に値する實を出だせ。また汝等己自らのうちに、我等は父にアブラハムありと云ひ始むる勿れ。そはわれ汝等に云はん、神は此等の石よりアブラハムのために、兒等を起し給ふことを得べければなり。九されど既に斧も樹の根に對ひて置かる、是の故にすべて良き實を出ださざる樹は伐り倒され、且つ火に投げ入れらるるなり。

一〇 かくて諸群衆、彼に問ふて云ひけるは、是の故に我等は何を爲すべきや。一一 乃ち彼答へて彼等に云へり、二つの下衣をもつ者は、もたぬ者に頒ち與ふべし。また食滋をもつ者も等しく爲すべし。一二 また關稅人等もバプテズマせらるるために到り、且つ彼に對ひていへり、師よ、我等は何を爲すべきや。一三 乃ち彼は彼等に對ひていへり、汝等に許されたるところより多く、何物をも强ひ要むること勿れ。一四 また兵卒たりし人々も彼に問ふて云ひけるは、されば我等は何を爲すべきや。乃ち彼等に對して彼いへり、誰をも劫かし、また誣ひ訴ふる勿れ。されど汝等の給料をもて滿足せよ。

一五 かくて民は待ち望みつつありしときにて、且つすべての「人々」その心のうちに、彼はキリストにあらざるか、とヨハネに就きて勘考しければ、一六 ヨハネすべての「人々」に答へて云ひけるは、我は如何にも水にて汝等をバプテズマす。されど我より力ある者來り給ふ、我はその鞋の紐を釋くにも足らざる者なり、彼は聖靈と火とにて汝等をバプテズマし給ふべ

し。一七 彼はその手に箕を〔持ちて〕その禾場を淨めん。かくて麥は集めてその倉に納れ、また殼は熄えざる火にて焚きつくし給ふべし。一八 また彼は尙ほ多くのことをもて民を勸め、福音を宣傳へたり。一九 然るに分封の主ヘロデ、その兄弟ピリポの妻なるヘロデヤに就きてと、己が爲しし惡しき事のすべてに就きて、彼より糺されければ、二〇 すべての〔惡しき事の〕上にこれをも加へたり、卽ち彼はヨハネを擒倉に閉ぢ込めたり。

二一 また民すべてバプテズマせられたるときかくありき、卽ちイエスのバプテズマせられて祈り給ひければ、天を開かれたり。二二 かくて聖なる靈は鴿の如き形にて、彼の上に降り給へり、且つ摩天より出でて云ひ給ひけるは、汝は我が子、愛せらるる者なり。汝に於てわれ悅を得たり。

二三 またイエスの自ら敎へ始め給ひしとき、年およそ三十なりき。〔人々に〕想はれ給ひし如く、ヨセフの子におはして、〔ヨセフは〕エリの、二四 〔エリは〕マッタテの、〔マッタテは〕レビの、〔レビは〕メルキの、〔メルキは〕ヤンナの、〔ヤンナは〕ヨセフの、二五 〔ヨセフは〕マッテアの、〔マッテアは〕アモスの、〔アモスは〕ナオミの、〔ナオミは〕エスリの、〔エスリは〕ナッガイの、二六 〔ナッガイは〕マアツの、〔マアツは〕マッタテアの、〔マツタテアは〕セメイの、〔セメイは〕ヨセフの、〔ヨセフは〕ユダの、二七 〔ユダは〕ヨアンネの、〔ヨアンネは〕レサの、〔レサは〕ゾロバベルの、〔ゾロバベルは〕サラテエルの、〔サラテエルは〕ネリの、二八 〔ネリは〕メルキの、〔メルキは〕アディの、〔アディは〕コサムの、〔コサムは〕エルモダムの、〔エルモダムは〕エルの、二九 〔エルは〕ヨセの、〔ヨセは〕エリエゼルの、〔エリエゼルは〕ヨオレムの、〔ヨオレムは〕マッタテの、〔マッタテは〕レビの、三〇 〔レビは〕スメオンの、〔スメオンは〕ユダの、〔ユダは〕ヨセフの、〔ヨセフは〕ヨナンの、〔ヨナンは〕エリアキムの、三一 〔エリアキムは〕メレアの、〔メレアは〕メンナの、〔メンナは〕マッタタの、〔マッタタは〕ナタンの、〔ナタンは〕ダビデの、三二 〔ダビデは〕エッサイの、〔エッサイは〕オベデの、〔オベデは〕ボアズの、〔ボアズは〕サルモンの、〔サルモンは〕ナアソンの、三三 〔ナアソンは〕アミナダブの、〔アミナダブは〕アラムの、〔アラムは〕エスロムの、〔エスロムは〕バレスの、〔バレスは〕ユダの、三四 〔ユダは〕ヤコブの、〔ヤコブは〕イサクの、〔イサクは〕アブラハムの、〔アブラハムは〕テラの、〔テラは〕ナコルの、三五 〔ナコルは〕サルグの、〔サルクは〕ラガウの、〔ラガウは〕バレクの、〔バレクは〕エベルの、〔エベルは〕サラの、三六 〔サラは〕カイナンの、〔カイナンは〕アルバクザデの、〔アルバクザデは〕セムの、〔セムは〕ノアの、〔ノアは〕ラメクの、三七 〔ラメクは〕マトサラの、〔マトサラは〕エノクの、〔エノクは〕ヤレドの、〔ヤレドは〕マレレエルの、〔マレレエルは〕カイナンの、三八 〔カイナンは〕エノスの、〔エノスは〕セツの、〔セツは〕アダムの、〔アダムは〕神の〔子なり〕。

第四章

かくてイエスは聖靈に滿ちて、ヨルダンより歸り給へり。かくて彼は靈をも

て荒野にまで導かれ給ひ、二惡魔より試みられ給ふこと四十日。またそれの日のうち彼は何をも喰ひ給はざりき、されどそれらの終りしのちに飢給へり。三また惡魔彼にいへり、汝もし神の子ならば、パンになるやう此の石にいへ。四然るにイエス彼に對ひ答へて、云ひ給ひけるは、人たる者はパンのみにて生くべからず、されど神のすべての詞にて〔生くべし〕、と錄されたり。五また惡魔は彼を高き山に連れ登りて、瞬きの間に、世界のすべての國々を彼に見はせり。六かくて惡魔彼にいへり、われ此のすべての權とその榮光とを汝に與へん。そは我に委ねられたればなり。されば我が欲する者にこれを與ふべし。七是の故に汝もし我が面前に平伏さば、すべての物は汝のものたるべし。八然るにイエス彼に答へて曰へり、我が後ろに往け、サタナ。そは、主、汝の神を拜し、且つ唯彼にのみ服事すべし、と錄されたればなり。九また彼はエルサレムに彼を逃れ往き、且つ神殿の頂端に置けり。かくて彼にいへり、汝もし神の子ならば、此處より汝自身を投げ落せ。一〇そは彼は汝に就き、その使等に命じて汝を衛らしめ給ふべく、一一また汝の足を石に衝き當つることなからんために、彼等は手にて汝を支ふべし、と錄されたればなり。一二然るにイエス答へて彼に曰へり、主、汝の神を試むべからず、と謂はるるなり。一三かくて惡魔はすべての試を竭したれば、或る期まで彼より離れたり。

一四かくてイエスは靈の力をもてガリラヤに歸り給ひたり。されば彼に就きての噂は、遍く圍の地方にまで出で來れり。一五かくて彼はすべて〔の人〕に頌められつつ、彼等の會堂にて教へ給へり。一六また彼は己が育ちし處なるナザレに到り給へり。かくて彼の習に循ひ、安息日に會堂に入り來り、且つ讀まんとて立ち上り給ひたり。一七されば彼に聖書者イザヤの小卷を渡されたり。乃ちその小卷を展べて、彼は〔かく〕錄されたるところを見出だし給へり、一八主の靈我が上におはす。是の故に貧しき者に福音を宣傳ふるために、彼は我に油を注ぎ給ひ、我を使はして心の傷める者を醫し、虜れ人には赦、また盲者には視力の回復を宣べ、抑へらるる者を放ち遣り、一九主の喜ばしき年を宣べしめ給ふ。二〇かくて彼はその小卷を卷きしのち、使丁に渡して坐し給へり。されば會堂に在るすべての目は彼を視凝めたり。二一乃ち彼は彼等に對ひて云ひ始め給へり。今月汝等の耳に在る、此の聖書は成就せらるるなりと。二二されば彼を證め、且つその口より出で往ける惠の言に驚けり。かくて云へり、此の者はヨセフの子にあらずや。二三乃ち彼等に對ひて曰へり、汝等は必ず我に此の喩を謂ふならん、醫士よ、汝自身を癒せ。カペナウムにて有りしと我等が聞きしところのことを、汝の古里なる此處にても爲せ。

二四また曰へり、誠にわれ汝等に云はん、豫言者はその古里にては受けらるる者にあらずと。二五されど眞を汝等に云はん、エリヤの日に、三年と六ケ月の間、天は鍵せられ、地のすべての上に大なる饑饉の發りしとき、イスラエルに多くの寡ありしが、二六エリヤはシドンのサレパタに、一〔人〕の寡婦の許にまでの外は、彼等のうちの誰の許にも遣はされざりき。二七

また預言者エリシヤの時に、イスラエルに多くの癩病者ありしが、ナアマン、シリア人の外は、彼等のうちの一人も淨められざりき。二八 されば此等の事を聞きて、會堂に在るすべての者、悉をもて滿たされたり。二九 かくて立ち上り、彼を市の外に攫み出だし、且つ彼を倒に投げ落さんとて、彼等の市が建てられたるところの山の崖にまで連れ往けり。三〇 されど彼は彼等の眞中を通りて過ぎ往き給へり。

三一 かくて彼はガリラヤの市なるカペナウムに下り往きて、安息日に彼等を敎へておはしき。三二 然るに彼等はその敎に驚かされき、そはその言は權のうちにありしが故なり。三三 また會堂に不淨なる惡鬼の靈に憑かれたる人ありき。かくて大聲に叫び出でて、三四 云ひけるは、ああ、ナザレ人イエスよ、我等にまた汝に何ぞや。汝は我等を亡ぼすために到り給へるか。われ汝は誰なるかを知る、〔卽ち〕神の聖なる者におはします。三五 然るにイエス彼を叱して云ひ給ひけるは、默め、且つ彼より出で來れ。乃ち惡鬼は彼を眞中に投げ倒したれど、少しも害はずに出で來れり。三六 されば驚はすべての上に發れり。かくて彼等互に話たり合ひて云ひけるは、此の言は何ぞや、權と力とにて不淨なる靈に彼言ひ付くれば、則ち出で來らんとは。三七 かくて彼に就きての風聞は、その圍の地方のすべての處にまで出で往けり。

三八 また彼は立ち上りて會堂を出で、シモンの家に入り來り給へり。然るにシモンの姑、大なる熱病にとりつかれてありき。されば人々彼に就きて彼に請へり。三九 乃ち彼はその傍に立ちて、熱病を叱し給ひければ、彼を離れたり。されば忽ち起ちて彼等に事へたり。

四〇 また陽の入る頃、樣々の疾にて弱れる者ある程しのすべての〔人々〕、これを彼の許に連れ往きけり。されば彼は一人一人の上に手を按きて癒し給へり。四一 また惡鬼も多く〔の人々〕より出で來りて叫び出で、且つ云ひけるは、汝はキリスト、神の子にておはすと。然るに彼は叱して話たることを許し給はざりき。そは彼等は彼のキリストにおはすことを知りたればなり。四二 また日になりしとき、出で來りて彼は寂しき場處に往き給へり。然るに諸群衆彼を索めたり。かくて彼の許に到りて、彼の彼等を離れて往き給はざるやう止めたり。四三 然るに彼は彼等に對ひて曰へり、我は必ず他の市々にも、福音＝神の國を宣傳へざるべからず。そは我はこれがために使はされたればなりと。四四 かくて彼はガリラヤの諸會堂にて宣べ給ひつつおはしき。

第五章

また群衆、神の言を聞かんとて、彼に押し迫りしときにかくありき、卽ち彼はゲネザレの湖の邊に立ちておはせり。二 かくて彼は湖の邊に置かれたる二つの船を見たまへり。また漁り人等は船より下り往きて網を洗へり。三 然るに彼はシモンのものなりし一つの船に乘り込みて、彼に請ひ、陸より少し離れたる處に出ださしめ給へり。かくて彼は坐して船〔の中〕より諸群衆を敎へ給へり。四 かくて彼は話たることを罷め給ひしとき、シモンに對ひて曰へり、深き處に〔船を〕持ち出だせ、且つ漁のために汝等の網を下ろせ。五

乃ちシモン答へて彼にいへり、主よ、我等は全く夜どうし勞したれど何をも獲ざりき。されど汝の詞のために網を下ろさん。六 乃ちかく爲したれば、彼等は魚の大なる群を鎖ぢ込めたり。されば網は裂けかかりたり。七 乃ち彼等は他の船のうちなる仲間の者に對ひ、來りて彼等を助くるやう合圖せしかば、彼等は到れり。かくて〔魚は〕双つの船に滿ちて沈みかかれる程なりき。八 さればシモンペテロ〔これを〕見て、イエスの膝下に伏して云ひけるは、主よ、われより離れ給へ、そは我は罪ある漢なればなり。九 そは驚は、彼等が獲りし多くの魚の漁のために、シモン及び彼に伴へるすべての者に取り憑きたるが故なり。一〇 またゼベダイの子にて、シモンの仲間なりしヤコブとヨハネも等し。さればシモンに對ひてイエス曰へり、懼るる勿れ。今より人を汝は生ながらに漁る者たらん。一一 かくて船を陸に寄せつけて後、彼等は一切を差しおきて彼に從へり。

一二 また彼は多くの市のうちの一におはししときかくありき、即ち見よ、〔身に〕癩病の滿ちたる男〔ありき〕。然るにイエスを見しとき、額を伏せ彼に願ひ云ひけるは、主よ、汝もし好とし給はば、我を淨むることを能くし給ふ。一三 されば彼は手を伸べ、彼に捫りて曰ひけるは、好し、淨まれよ。乃ち直に癩病は彼より去れり。一四 かくて彼は誰にもいふ勿れ。汝自身を祭司に見はせ、且つ汝の淨まりしことに就きて彼等に證のため、モヲゼの言ひ付けし如く獻げ物せよ、と彼に命じ給へり。一五 然るに彼に就きての言は增々弘まれり。されば多くの群衆は彼に聞かんとて、またその病より癒されんとて集まり來りたり。一六 されど彼は荒野に退き、且つ祈りておはしき。

一七 また多くの日の一〔日〕にかくありき、即ち彼は教へておはしき。またパリサイの人々と教法師等とありて坐したりき。彼等はガリラヤのすべての村々、またユダヤ、またエルサルムより來りしなり。また主の力は彼等を醫すために〔顯はれ〕たり。一八 また見よ、中風にかかりし人を床に載せて擔ふ人々〔あり〕。かくて彼等はこれを擔ひ入れ、且つ彼の面前に置かんことを索めたり。一九 然るに群衆のゆへに、彼等は擔ひ入るべき如何なる術をも見出ださざりしかば、屋の上に登りて、瓦の間より彼を小床と同に眞中にまで、イエスの前に釣り下ろせり。二〇 乃ち彼等の信仰を見て、彼に曰へり、人よ、汝の罪は汝に赦されたり。二一 然るに學者等とパリサイの人々とは勘考して云ひ始めけるは、冒を話たるところの此の者は誰なるか。獨り神の外に誰か罪を赦すことを得るや。二二 然るにイエス彼等の勘考を審かに知り、答へて彼等に對ひて曰へり、汝等はその心のうちて何を勘考するや。二三 汝の罪は汝に赦されたり、といふことと、或ひは、起きて歩め、といふことと孰れ易きや。二四 されど人の子は地にて、罪を赦すの權あることを汝等の知るために、‖中風の者に曰へり、‖われ汝に云はん、起き且つ汝の小床を取り上げて、汝の家に往け。二五 乃ち忽ち彼等の面前に起き上りて、彼の臥しつつありし〔小床を〕取り上げし後、彼は神を頌めつつ己が家にと去れり。二六 されば驚はすべ

て〔の人々〕を捉へたり。かくて彼等は神を頌め、且つ畏をもて滿たされて云ひけるは、我等は今日不思議なる事を見たりと。

二七 また此等の事の後、彼は出で來りて、關稅所に坐する關稅人、名はレビを看給へり。かくて彼に曰へり、我に從へ。二八 乃ち彼は一切を措き、起ちて彼に從へり。二九 かくてレビは彼のために、己が家にて大なる饗を爲せり。然るに多くの關稅人の群と、彼等と共に在りし他の人々とありて、席に着けり。三〇 されば學者等とパリサイの人々とは、弟子等に對ひ咬きて云ひけるは、何すれぞ汝等は關稅人並に罪人どもと共に食し且つ飲むや。三一 然るにイエス答へて彼等に對ひて曰へり、健なる者は醫士の要あらず、されど惱ある者は〔その要あり〕。三二 我は義しき者を召すために到れるにあらず、されど罪人を悔ひ改に至らしめんためなり。三三 また彼等は彼に對ひていへり、ヨハネの弟子等は屢々斷食と祈願とを爲し、パリサイの人々も等しきに、何すれぞ汝の彼等〔弟子等〕は食し且つ飲むや。三四 乃ち彼は彼等に曰へり、汝等は婚姻の席に在る子等をして、花聟のこれと共に在るうちに斷食を爲さしむることを得るか。三五 されど日は到らん、‖即ち花聟の彼等より奪ひ去らるるとき、‖そのときそれらの日に彼等は斷食するならん。三六 また彼等に對ひて喩をもて云ひ給へり、新しき衣よりの繼を古き衣に置く者はなし。もし然らずば、新しきをも裂かん。且つ新しき衣とり〔取りし〕繼は古き〔衣〕に合はず。三七 また新しき葡萄酒をば古き皮に入るる者はなし。されどもし然らずば、

葡萄酒、その新しきは皮を破り、且つ流れ出づるならん、かくて皮も廢るべし。三八 されど新しき葡萄酒は新しき皮に入れらるるなり、かくて二つながら護らるるなり。三九 また古き〔葡萄酒〕を飲みて〔後〕、直に新しきのを欲する者はなし。そは古きは殊に良しといへばなり。

第六章

また初の安息日にかくありき、彼は麥畠を經て過ぎ往き給へり。かくて弟子等穗を摘み、且つそれを手のうちにて摩りて食しつつありき。二 然るにパリサイの人々のうちの或る者いへり、何ぞ汝等は安息日に爲すは律しからざる事を爲すや。三 乃ち彼等に對ひてイエス曰へり、汝等はダビデ及び彼と共にありし人々の飢ゑしとき、彼が爲しところの此の事をも讀まざるか。四 彼は神の家に入り來り、且つ獨り祭司の外、喰ふは律しからざる供のパンを取りて喰ひ、且つ彼と共に在りし人々にも與へたるは如何にぞや。五 また彼等に云ひ給へり、人の子はまた安息日の主なりと。

六 他の安息日にも彼は會堂に入り來り、且つ敎へ給ひしときかくありき、即ちそこに人ありき、且つ彼の手のその右手なるは萎へたり。七 されば學者等とパリサイの人々とは、安息日に彼は癒すならんかと窺へり。是れ彼に逆らひて訴を見出ださんためなり。八 然るに彼はその勘考を知り給へり。かくて萎へたる手をもつ人に曰へり、起きて眞中に立て、乃ち彼は起きて立てり、九 是の故にイエス彼等に對ひて曰へり、われ汝等に問ふべし、安息日に善を爲すと、或は惡を爲すと、執れ律しきや。魂を救ふことか、或は亡ぼすことか。一〇 かくて彼等すべてを

駒はして、かの人に曰へり、汝の手を伸べよ。乃ち彼はその如く爲ししに、その手は他の〔手の〕如く途に直れり。一一 然るに彼等は狂氣にて滿たされ、且つイエスに何を爲すべきか、と互に語たり合へり。

一二 またそれらの日にかくありき、彼は祈らんとて山にまで出で來り給へり。かくて彼は神の禱に夜を過ぐし給へり。一三 また日になりしとき、彼は弟子等を召し給へり。かくてそのうちより十二を選び出だして、これを使徒と名け給へり。一四 〔卽ち〕ペテロと名け給ひしシモンとその兄弟なるアンデレ、〔また〕ヤコブとヨハネ、〔また〕ピリポとバルトロマイ、一五 〔また〕マタイとトマス、〔また〕アルパイの〔子〕なるヤコブと熱心者と呼ばれしシモン、一六 〔また〕ヤコブの〔兄弟〕ユダ幷に付し人となりしイスカリオテのユダ〔なり〕。一七 かくて彼は彼等と共に下りて、平かなる場所に立ち給へり。されば弟子等の群衆及び民の夥しき大衆、彼に聞かんとて、また彼等の疾より醫されんとて、ユダヤ、またエルサレム、またツロとシドンの海邊より到れり。一八 また不淨なる靈に惱まさるる人々も〔到りて〕癒されたり。一九 されば群衆みな彼に捫らんことを索めたり。そは力、彼より出で來りて、すべてを醫したればなり。

二〇 かくて彼は目を弟子等の方に向けて云ひ給へり、福なる者は貧しき者〔なり〕、そは神の國は汝等のものなればなり。二一 福なる者は今飢うる者〔なり〕、そは汝等は飽かさるべければなり。福なる者は今泣く者〔なり〕、そは汝等は笑ふべければなり。二二 人の子のために人々汝等を憎み、また汝等を逐ざけ、また罵り、惡ししとして汝等の名を棄てなば、そのとき福なる者は汝等なり。二三 その日には喜べ、且つ踊れ。見よ、そは天に於て汝等の報大なればなり。そは彼等の先祖等は豫言者等に、此等の事に循ひて爲したればなり。二四 されど富める者なる汝等には禍なるかな、そは汝等は已が慰を得たればなり。二五 滿たされたる者なる汝等には禍なるかな、そは飢うべければなり。今笑ふ者なる汝等には禍なるかな、そは汝等悲しみ、且つ泣くべければなり。二六 人々みな汝等を良くいふときは、汝等禍なるかな、そは彼等の先祖等は僞豫言者等に、此等の事に循ひて爲したればなり。

二七 されど聞くところの汝等に我云はん、汝等の敵を愛せよ、汝等を憎む者に良く爲せ。二八 汝等を詛ふ者を祝せよ。また汝等を侮る者のために祈れ。二九 頰に於て汝を扑く者には他〔の頰〕をも委せよ。また汝の上衣を取る者には下衣をも拒む勿れ。三〇 すべて汝に求むる者には與へよ。また汝の物を取り去る者より求め返す勿れ。三一 また人の汝等に爲さんことを汝等が欲する如く、汝等も等しく彼等に爲せ。三二 また汝等もし汝等を愛する者を愛するとも、汝等に何の謝すべきことあらんや。そは罪人にても已を愛する者を愛すればなり。三三 汝等もし汝等に善を爲す者に善を爲すとも、汝等に何の謝すべきことあらんや、そは罪人にても同じきことを爲せばなり。三四 また汝等もし受くることを望みて人に貸すとも、何の謝すべきことあらんや。そは罪人にても均しき物を受くるために、罪人に貸せばなり。三五 されど汝等の敵を愛

せよ、且つ善を爲せ、また何をも望まずして貸せ。されば汝等の報は大ならん、且つ至高者の子たるべし。そは彼は恩を知らざる者、また惡しき者にも、慈愛におはせばなり。三六 是の故に汝等の父の慈悲におはすが如く、汝等は慈悲ある者となれ。三七 また裁く勿れ。されば汝等必ず裁かれず。罪する勿れ、されば汝等必ず罪せられず。釋せよ、されば汝等釋さるべし。三八 與へよ、されば汝等に與へられん。量を良くし、且つ押つけ、また搖り込み、且つ溢らして汝等の懷に入れん。そは汝等の量るところと同じ量にて、汝等に量り返さるべければなり。

三九 また喩を彼等に曰へり、盲者は盲者を手引することを得るか。双方とも穴に陷らざらんや。四〇 弟子はその師に勝らず。されどすべて完うせられたる者は、その師の如くあらん。四一 また汝の兄弟の目に〔在る〕ところの塵を視て、己自らの目に〔在る〕ところの梁を認めざるは何ぞや。四二 或ひは汝自ら己の目に〔在る〕梁を視ずして、兄弟よ、汝の目に〔在る〕ところの塵を取り去ることを許せ、と如何にして汝の兄弟に云ふことを得るや。僞善者よ、先づ汝の目より梁を取れ、さればそのとき汝の兄弟の目に〔在る〕ところの塵を取り去るべく、明かに視るべし。四三 そは良き樹は惡しき實を出ださず、また惡しき樹は良き實を出ださざればなり。四四 そは樹はおのおの己が實にて知らるればなり。そは茨より無花果を摘み取らず、また懸鉤子より葡萄を集めざればなり。四五 善き人はその心の善き庫より善きものを持ち出だし、また惡しき人はその心の惡しき庫より惡しきものを持ち出ださん。そは心に溢るるより口は話たればなり。

四六 また汝等は我を、主よ、主よ、と呼び、且つ我が汝等に云ふところを爲さざるは何ぞや。四七 すべて我が許に來り、且つ我が言を聞き、且つこれを爲す者は誰に等しきかを汝等に示さん。四八 彼は家を建つるとき、〔地を〕堀り且つ深めて、礎を岩の上に置きたる人に等しきなり。されば洪水いでて、流その家を衝きたれども、搖がすこと能はざりき。そは岩の上に築かれたればなり。四九 されど聞きて爲さざる者は、礎なくして地の上に家を建てたる人に等しきなり。流その〔家〕を衝きたり、乃ち直に倒れたり、且つその家の壞は大なりき。

第七章

また彼はその詞をすべて民の耳に遂げ給ひし後、カペナウムに入り來り給へり。二 然るに百人長の或る奴僕、惱ありて死ぬるばかりなりき。これは彼に重ぜらるる者なりき。三 かくて彼はイエスに就き聞きたれば、ユダヤ人の長老等を彼の許に使はして、その奴僕を來りて救ひ給はんことを請へり。四 乃ち彼等はイエスの許に詣り、切に乞ふて云ひけるは、彼は〔汝の〕これを諾ひ給ふに値する者なり。五 そは彼は我等の國人を愛し、且つ我等のために會堂を建てたればなりと。六 かくてイエス彼等と同に往き給へり。然るに彼は既にその家を距ること遠からざりしとき、百人長、數人の友を彼の許に遣はして云ひける者なればなり。七 かるが故にわれ自らも、汝の許に到るに値すと思はれず。されど言にて曰

へ。されば我が僕は醫されん。八そは我も己の下に兵卒をもちながら、權の下に置かるる人なるに、我これに、往け、と云へば、往き、また他の者に、來れ、〔と云へば〕來り、また我が奴僕に、これを爲せ、〔と云はんに〕、爲せばなり。九乃ちイエスこれらの事を聞きて彼に驚き給へり。かくて振り返り彼に從へる群衆に曰へり、われ汝等に云はん、イスラエルのうちにも、かくばかり大なる信仰を見出ださざりき。一〇かくて遣はされたる人々家に歸りしとき、病める奴僕の健になれるを見出だせり。

一一また次の日にかくありき、彼はナインと呼ばるる市に往き給へり。また夥しき弟子等及び大なる群衆も、彼と同に往けり。一二かくて市の門に近づき給ひしとき、見よ、斃なりし母の獨子の死にたる者は舁き出だされつつありき。また市の夥しき群衆彼〔婦〕に伴へり。一三乃ち主は見て彼を不便に思ひ給ひて、曰へり、泣く勿れ。一四かくて彼は進み往きて、柩に手をつけ給ひければ、擔へる人々立ち止まれり。乃ち曰へり、若者よ、われ汝に云はん、起きよ。一五されば死人は起きて坐し、且つ話たり始めたり。乃ち彼はその母に彼を與へ給へり。一六されば畏はすべての者を捉へたり。かくて人々神を頌めて云ひけるは、大なる豫言者、我等のうちに起れりと。また、神はその民を顧み給ふ、〔と云へり〕。一七かくて彼に就きての此の言は、遍くユダヤ、またすべてその圍の地方に出で來れり。

一八またすべて此等の事に就きて、ヨハネにその弟子等は報じたり。一九かくてヨハネはその弟子等のうちの或る者二〔人〕を召し、イエスの許に遣はして云ひけるは、汝は來り給ふ者なるや、或ひは我等他の者を待つべきか。二〇乃ち彼の許に詣りてかの人々いへり、バプテズマのヨハネ我等を汝の許に使はして、云ひけるは、汝は來り給ふ者なるや、或ひは我等他の者を待つべきか。二一然るにその時に於て彼は疾、また病苦、また惡しき靈より、多くの者を癒し給ひ、また多くの盲者に視ることを賜ひたり。二二さればイエス彼等に答へて曰へり、往きて汝等の見しところ、また聞きしところをヨハネに報ぜよ。そは盲者は視力を受け、跛者は步み、癩病の者は淨められ、聾者は聞き、死人は起され、貧しき者は福音を宣傳へられたればなり。二三されば誰にても、我に躓かされざる者は福なる者なり。二四かくてヨハネの使の去りしとき、彼はヨハネに就き諸群衆に對ひて云ひ始め給へり、汝等何を看んとて荒野に出で來りしや。風に搖らるる葦なるか。二五されど何を見んとて出で來りしや。柔なる衣にて裝はるる人なるか。見よ、華やかなる衣に、また奢に暮しつつある者は王宮にあり。二六されど汝等は何を見んとて出で來りしや。豫言者なるか。然り、豫言者より尙ほ勝れる者を〔見んとてなり〕。二七此の者は、見よ、われ汝の顏の前に我が使を使はさん。彼は汝に先立ちて、汝の道を備へんとす、と錄されたる者なり。二八そはわれ汝等に云はん、婦の生める者のうちに、バプテズマのヨハネより大なる豫言者はあることなければなり。されど神の國に於ける最小き者も、彼より尙ほ大なり。二九さればすべての民幷に關稅人等は聞きしとき、ヨハネのバプテズマにてバ

プテズマせられて、神を義とせり。三〇 然るにパリサイの人々及び掟學者等は、彼よりバプテズマせられずして、己自らのために神の旨を傍寄せたり。三一 また主は曰へり、是の故に此の代の人々をわれ何に等しうすべきや。また彼等は何に等しきや。三二 彼等は市場に坐して互に呼び、且つ汝等のために、我等笛吹きたれども汝等踊らず、また汝等のために、我等悲しみたれども汝等は泣かざりき、と云ふ童等に等しきなり。三三 そはバプテズマのヨハネ來りて、パンをも食せず、また葡萄酒をも飲まざれば、彼は惡鬼に憑かる、と汝等云ひ、三四 人の子來りて食し且つ飲むときは、則ち見よ、食を貪り且つ酒を嗜む人、關稅人また罪人どもの友、と汝等云へばなり。三五 されど智慧はそのすべての兒等より義とせられたり。

三六 またパリサイの人々のうちの或る者、彼と共に喰ひ給はんことを彼に請へり。されば彼はそのパリサイ人の家に入り來りて、席に着き給へり。三七 かくて見よ、その市の罪人なりし婦、パリサイ人の家にて彼の席に着き給ひしことを認めて、香油の〔入りたる〕蠟石の壺を持ち來り、三八 且つ泣きながらその足に添ひて後ろに立ち、涙にてその足を濡らし始めたり。かくて己が頭の髮にて拭ひ、またその足に接吻し、且つ香油をこれにぬりつつありき。三九 然るに〔これを〕見て彼を請じたるかのパリサイ人、己自らのうちにいへり、云ひけるは、此の者もし豫言者なりしならば、己に捫りし者は誰にて、如何なる婦なるかを知りしならん。そは彼は罪人なればなり。

四〇 乃ちイエス答へて彼に對して曰へり、シモンよ、われ汝にいふことあり。乃ち彼述べけるは、師よ、曰へ。四一 或る貸主に二〔人〕の借主ありき。一〔人〕は五百デナリ、また他の者は五十デナリを負へり。四二 然るに彼等は償ひかたなかりければ、双方とも彼は恕したり。是の故に彼等のうち、孰れが最も多く彼を愛するならんか、いへ。四三 乃ちシモン答へていへり、われ思ふに、多く恕されたる者なりと。彼また曰へり、汝は眞直に判じたり。四四 かくて彼は婦の方に振り返りつつ、シモンに述べ給へり。汝は此の婦を視るか。われ汝の家に入り來りし〔とき〕、汝は我が足のために水を與へず、然るに彼は涙にて我が足を濡らし、且つその頭の髮にてこれを拭へり。四五 汝は我に接吻を與へず。然るに彼は我が入り來りし〔とき〕より、我が足に幾度も接吻して止めず。四六 汝はエライオンをもて我が頭をぬらず。然るに彼は香油をもて我が足をぬれり。四七 是の故にわれ汝に云はん、彼の多くの罪は赦されたり。そは彼は厚く愛したればなり。されど赦さるること少なき者は、その愛することも少なし。四八 かくて彼は彼〔婦〕に曰へり、汝の罪は赦されたり。四九 然るに〔彼と〕同に席に着ける人々、己自らのうちに云ひ始めたり、罪をも赦すところの此の者は誰なるや。五〇 乃ち婦に對ひて曰へり、汝の信仰汝を救へり。平和にまで往け。

第八章

またその後かくありき、即ち彼は福音＝神の國を宣傳へつつ、また宣べつつ市より市に、また村より村に巡り往き給へり。また十二も彼に伴へり。二 且

つ惡しき靈より、また病より癒されたる數人の婦等、〔卽ち〕七つの惡鬼の出でたるマグダラと呼ばるるマリア、三及びヘロデの家令クウザの妻ヨアンナ、並にスザンナ、その他多くの婦等も伴ひて、己が有ち物にて彼に事へたり。

四 また大なる群衆集まり、また市の人々彼の許に往きければ、彼は喩によりて曰へり、五 種まく者、その種を播かんとて出で來れり。かくて彼は播きけるに、或るものは道のほとりに落ちたり。されば踏みつけられ、また空の鳥それを喰ひ盡せり。六 また他のものは岩の上に落ちたり。されば生え出でたれど、濕氣なきゆへに枯れたり。七 また他のものは茨の眞中に落ちたり。されば茨ともそだちて茨はそれを塞げり。八 また他のものは善き地に落ちたり。されば生え出でて百倍の實を出だせり。此等の事を云ひつつ叫び給へり、聞くべく耳をもつ者は聞くべし。九 かくて弟子等彼に問ふて云ひけるは、此の喩は何なるや。一〇 乃ち彼曰へり、汝等には神の國の奧義を知ることを與へられたり。されど餘の人々には喩にてす。これ彼等は視つつ視ず、また聞きつつ悟らざるためなり。一一 また喩はこれなり〔卽ち〕種は神の言なり。一二 また道のほとりなるそれらは、聞く人々なり、そのとき惡魔來り、且つ彼等の信じて救はるることなからんために、その心より言を取り去る〔なり〕。一三 また岩の上なるそれらは、聞くとき喜びて言を受くる人々〔なり〕。されど此等の者は根をもたず、彼等は信ずること暫時にて、試の時には避く。一四 また茨のうちに落ちしもの、此等の者は聞きて〔後〕往く往く所帶の心遊と富と快樂とに塞がれて〔實を〕完うに結ばざる人々なり。一五 また良き地に〔落ちし〕もの、此等の者は、良き、また善き心にて言を聞き、これを保ち、且つ忍びて實を結ぶところの人々なり。

一六 また燈火を點してこれを器にて蔽ひ、或ひは床の下に置くものはなし。入り往く者のその光を視るため、燈火臺の上に置くなり。一七 そは隱れて顯にならざるものなく、また秘して知られず、且つ顯にならざるものなければなり。一八 是の故に汝等聞くこと如何と視よ。そは誰にても有つ者は與へらるべく、また誰にても有たぬ者は、有てりと思はるる物まで取り去らるべければなり。

一九 また彼の母と兄弟等、彼の許に詣りたれど、群衆のゆへに近づくこと能はざりき。二〇 されば〔人々〕これを報じて云ひけるは、汝の母と汝の兄弟等と、汝を見んと欲して外に立ちつつあり。二一 然るに彼答へて彼等に對ひて曰へり、我が母また我が兄弟等は、神の言を聞き、且つこれを爲す此等の者なり。

二二 また多くの日の一〔日〕にかくありき、卽ち彼と弟子等と船に乘れり。かくて彼等に對ひて彼曰へり、いざ湖の向側に越さん。乃ち船出せり。二三 かくて航れるとき、彼は眠り給へり。然るに暴風湖に下ろし來りて、彼等は〔水に〕滿たされ且つ危かりき。二四 されば彼等進み來り、彼を起して云ひけるは、主よ、主よ、我等亡びんとす。乃ち彼は起きて風と逆卷く水とを叱し給ひければ、止みて風となれり。二五 かくて彼等に曰へり、汝等の信仰は何處にある

や。されば彼等は懼れて驚き、互に云ひけるは、されば此の者は誰なるぞや。風と水とにさへ
言ひ付け給へば、則ち彼に服はんとは。
二六 かくて彼等は下りて、ガリラヤの對なるガダラ人の地方に航りたり。二七 また彼の〔船
より〕陸に出で來り給ひしとき、この市のものなる或る男、これに往き逢へり。彼は久しく惡
鬼に憑かれたり。されば衣を着けず、また家に居らず、されど墓に〔居れり〕。二八 然るにイエ
スを見て、叫びつつその前に伏し、且つ大聲にていへり。イエスよ、至高き神の子よ、我にま
た汝に何ぞや。われ汝に祈願す。我を苛責し給はざらんことを。二九 そは彼は不淨なる靈に、
かの人より出で來れ、と命じ給ひたればなり。そは久しく〔惡鬼〕彼に憑きたれば、彼は鏈と桎
とにて衛られつつ繫がれたれど、その繫を破り、惡鬼に迫ばれて荒野に往きたればなり。三〇
かくてイエス彼に問ふて云ひ給ひけるは、汝の名は何ぞ、乃ち彼いへり、レギョン。そは多く
の惡鬼の彼に入りたるが故なり。三一 かくて彼は底なき處に去り往くべく、言ひ付け給はざら
んことを彼に乞へり。三二 またそこに山にて、多くの豚の群の飼はれてありき。然るに彼等は
そのうちに入り來ることを許し給はんことを彼に乞へり。乃ち彼等に許し給へり。三三 されば
惡鬼どもかの人より出で來りて豚に入りたれば、群は崖を下り、湖に跳び入りて溺れたり。三四
然るに飼ふ者等、發りし事を見て遁れ去り、市にも野にもこれを報じたり。三五 されば人々發
りし事を見んとて出で來り、イエスの許に到りて、惡鬼の出でたる人の、衣を着け慥なる心に

で、イエスの足下に坐するを見出だして懼れたり。三六 乃ち如何にして、惡鬼に憑かれたる者
の救はれしかを、見し人々これを彼等に報じたり。三七 かくてゲラセネの圍の地方の大衆みな、
彼等より去り給はんことを彼に請へり。そは彼等は大なる懼に憑かれたればなり。乃ち彼は船
に乘りて歸り給へり。三八 また惡鬼の出でたる人は彼に伴はんことを願へり。然るにイエス彼
を去らしめて、云ひ給ひけるは、三九 汝の家に歸れ、且つ神の汝に爲し給ひしすべてのことを
具に陳べよ。乃ち彼は去つて、イエスの彼に爲し給ひしすべてのことを遍く市に宣べたり。
四〇 またイエスの歸り給ひしときにかくありき、群衆喜びて受けたり。そは彼等はすべて彼
を待ちつつありたればなり。
四一 また見よ、一〔人の〕男到れり、その名はヤイロ、彼は會堂の長なりき。かくてイエス
の足下に伏して、彼の家に入り來り給はんことを乞へり。四二 そは彼に獨り娘ありて十二歳程
なりしが、死ぬるばかりなりければなり。乃ち彼は往き給ひしに、諸群衆彼を〔立ち〕塞げり。
四三 また十二年このかた血漏にてありし婦、‖彼は多くの醫士のために、その所帶を盡く費し
たれど、誰によりても癒さるること能はざりき。‖ 四四 彼の後ろに進み來りて、その衣の緣に
捫れり。然るに忽ち血の出づること止みたり。四五 然るにイエス曰へり、我に捫りし者は誰ぞ。
乃ちペテロ及び彼と共に在りしすべての人々、否みていへり、主よ、諸群衆汝に押し迫り、且つ
込み合ふなり。然るに汝は、我に捫りし者は誰ぞ、と云ひ給ふか。四六 さればイエス曰へり、

離か我に捫れり。そは我はわれより力の出で來りしを知りたればなり。四七 さればかの婦、隱されざりしことを見て、慄きつつ到り、且つ彼の前に伏して、その捫りしゆへと、忽ち醫されたる狀とを民のすべての面前にて告げたり。四八 彼乃ち曰へり、勇ましかれ、娘よ、汝の信仰汝を救へり。平和にまで往け。四九 かくて彼の尙ほ話たりておはししとき、會堂長よりの或る者來る。彼に云ひけるは、汝の娘は死にたり、師を煩はす勿れと。五〇 然るにイエス聞きて彼に答へて云ひ給ひけるは、懼るる勿れ、唯信せよ。されば彼は救はるべし。五一 かくて家に入り來り給ひしとき、彼はペテロまたヤコブまたヨハネ、幷に童の父と母との外は、誰をも入り來ることを許し給はざりき。五二 然るに人々みな泣き、且つ悲しみつつありしかば、彼曰へり、泣く勿れ。死にたるにあらず、されど寢ぬるなり。五三 乃ち彼等はその死たることを知りければ、彼を嘲笑へり。五四 然るに彼はすべての者を外に逐ひ出だして後、彼の手を抑へ、叫びて云ひ給ひけるは、童よ、起きよ。五五 乃ちその靈歸りたれば、忽ち起てり。かくて彼は物を彼に喰はしむべく指圖し給ひたり。五六 されば双親は駭かされき。かくて彼は誰にも發りしことをいふ勿れ、と彼等に命じ給へり。

第九章

また彼は十二弟子を召し集めて、これにすべての惡鬼を制し、また疾を癒す力と權とを與へ、二 且つ神の國を宣べ、また病める人々を醫すために使はし給へり。三 乃ち彼等に對ひて曰へり、旅路のために何をも携ふる勿れ。杖をも、また權袋をも、

またパンをも、また銀子をも、また二つの下衣をも持つ勿れ。四 また汝等いづれの家にても入れ、そこに逗まれ、またそこより出で來れ。五 また人々汝等を受けざるため、その市を出で來るときは、彼等に對ひて證のために、汝等の足より塵を振り拂へ。六 かくて彼等は出で來りて村々に循ひて巡り往き、遍く福音を宣傳へ、且つ到るところにて癒したり。

七 また分封の主なるヘロデは、彼によりて發りしすべての事を聞きて惱まされたり。そは或る者より、ヨハネは死人のうちより起されたり、と云はれ、八 また或る者より、エリヤ現はれたり、と〔云はれ〕、また他の者より、古の豫言者の一〔人〕甦れり、と〔云はれ〕たればなり。九 かくてヘロデいへり、我ヨハネを馘れり。然るにかかる事を我が聞くところの此の者は誰なるや。乃ち彼はこれを見んことを索めたり。

一〇 また使徒等は歸り來りて、その爲ししことを具に陳べたり。かくて彼は彼等を携へ人を避けて、ベテサイダと呼ばるる市の寂しき場處に退き給へり。一一 然るに諸群衆これを知りて彼に從ひたり。乃ち彼等を受けて神の國に就きて話たり、且つ癒の要ある人々を醫し給へり。一二 かくて日は傾き始めければ、十二は進み來りて彼にいへり、群衆をして圍の村また里に往きて宿り、且つ食料を見出だすために去らしめ給へ。そは我等は寂しき場處なる此處に在ればなり。一三 然るに彼等に對ひて曰へり、汝等これに喰はしめよ。乃ち彼等いへり、我等にあるは五つのパンと二つの魚より多からず。此のすべての民のためには、往きて食料を買ふにあらざ

ればなし。一四そは男約そ五千ありたればなり。然るに弟子等に對ひて曰へり、彼等をして約そ五十〔人〕づつに組みて席に着かしめよ。一五乃ち彼等はその如く爲して、みな席に着かしめたり。一六かくて彼は五つのパンと二つの魚とを取りて、天を觀上げ、これを祝し、且つ擘き給へり。かくて弟子等をして群衆の前に置かしめ給へり。一七乃ち彼等は喰へり、且つすべての者壓かされたり。かくて彼等は擘片の餘りしものを十二手籃に拾ひ上げたり。

一八また人を離れて、彼の祈りつつおはししときにかくありき、弟子等は彼と同にありき。かくて彼等に問ふて、云ひ給ひけるは、諸群衆は我を誰なりと云ふや。一九乃ち彼等答へていへり、バプテズマのヨハネ、また他の者は、エリヤ、また他の者は、古の或る豫言者の甦れるなりと。二〇かくて彼等に曰へり、されど汝等は、我を誰なりと云ふや。乃ちペテロ答へて、神のキリスト、といへり。二一然るに彼は彼等を叱して、此の事を誰にもいふ勿れ、と命じて、二二曰ひけるは、必ず人の子は多くの苦を受け、また長老等及び祭司長等并に學者等より棄てられ、また殺され、また三日めに起されざるべからずと。

二三かくてすべて〔の者〕に對ひて云ひ給へり、もし誰ぞ我に跟き來らんと欲せば、己自らに克ち、且つ日に荷ひ己が十字架を負ひて我に從ふべし。二四そは誰にても、その魂を救はんと欲する者はこれを失ふべく、されど誰にても、我がためにその魂を失ふ者、此の者はこれを救ふべければなり。二五人、全世界を儲けて己自らを失ひ、或ひは損せば、何の益あらんや。

二六そは誰にても、我と我が言とを恥づる者、此等の者を人の子は、己自らと父と聖き使等との榮光のうちに來らんとき恥づべければなり。二七されどわれ眞に汝等に云はん、此處に立つ者のうちに神の國を見るまで、必ず死を味はざる人々あり。

二八また此等の言の後、八日ばかりにかくありき、即ち彼はペテロまたヤコブまたヨハネを携へ、祈らんとて山に登り給へり。二九かくて彼の祈り給ひしとき、その顏の容子變り、その衣は白き輝になれり。三〇また見よ、二〔人〕の男〔あり〕彼と話たり合へり。その人々はモヲゼとエリヤなりき。三一彼等は榮光のうちに現はれて、エルサレムにて彼の將に成し就げんとし給ふ、その別につきて云へり。三二然るにペテロ及び同にありし者、眠に壓し伏せられき。かくて彼等の全く目覺めしとき、彼の榮光と彼と同に立てる二〔人〕の男とを見たり。三三然るに彼等の彼より立ち去りしときかくありき、ペテロはイエスに對ひていへり、主よ、此處に在るは我等のために良し。されば我等に廬を三つ造らしめ給へ、一つを汝のために、また一つをモヲゼのために、また一つをエリヤのために。是れ彼は云ひつつある事を知らずして〔いひしなり〕。三四かくて此等の事を彼の云ひつつありしとき、雲發りて彼等を覆へり。乃ちその雲の中に入りしとき、彼等は懼れたり。三五また聲、雲より出でて云ひ給ひけるは、此の者はわが子、愛せらるる者なり。汝等彼より聞け。三六また聲の出でしとき、唯イエスのみ見出だされ給ひき。かくて彼等は默してその視し事をそれらの日に、誰にも告げざりき。

三七 また次の日にかくありき、彼等の山を下りしとき、大なる群衆彼に出で會へり。三八 かくて見よ、群衆のうちより或る男叫び出でて云ひけるは、師よ、われ汝に願ふ、我が子を注めて御たまへ、そは我には獨子なればなり。三九 然るに見たまへ、靈彼に憑けば、俄に叫び出で、且つ泡ふきて痙攣さす、かくて傷ひしのち辛うじて立ち退くなり。四〇 されば我これを逐ひ出だすやう、汝の弟子等に願ひたれど、彼等は能はざりき。四一 乃ちイエス答へて曰へり、ああ、信なき曲れる代なるかな、いつまでわれ汝等と偕に在りて汝等を忍ばんや。汝の子をここに連れ來れ。四二 然るに彼は進み來ちんとせしとき、惡鬼これを突き倒し痙攣せしめたり。乃ちイエスは不淨なる靈を叱して童を醫し、その父に渡し給ひたり。四三 されば凡べて〔の者〕神の威光に駭かされき。かくてすべて〔の者〕、イエスの爲し給ひしすべての事を異しみつつありしとき、弟子等に對ひて彼曰へり、四四 此等の言を汝等の耳に置け、そは人の子は將に人々の手に付されんとすればなり。四五 然るに彼等は此の詞を解せざりき、また悟られざるやう被はれたり。また彼等は此の詞に就きて問ふことを懼れたり。四六 然るに大なる〔者〕は誰ならんとの勘考、彼等のうちに入り來れり。四七 乃ちイエスその心の勘考を見たまひければ、幼兒を取りてこれを己の傍に置き給ひ、四八 かくて彼等に曰へり、誰にても我が名に於て、此の幼兒を受くる者は我を受け、また誰にても我を受くる者は、我を使はし給ひし者を受く。そはすべて汝等のうちにて最小さき者、此の者は大なる者たるべければなり。

四九 またヨハネ答へていへり、主よ我等汝の名に於て惡鬼を逐ひ出だす者を見たり。されば これを禁じたり。そは我等に從はざりければなり。五〇 然るにイエス彼等に對ひて曰へり、禁ずる勿れ。そは我等に逆らはざる者は我等に從ふ者なればなり。

五一 また彼を擧ぐる日の滿たされつつありしときにかくありき。卽ち彼はエルサレムに往くべく、確乎その顏を向け給へり。五二 かくて彼の顏に先立ちて數人の使を使はし給へり。乃ち彼等往きて彼のために備をなさんとて、サマリヤ人の或る村に入り來れり。五三 然るに彼等は彼を受けざりき。そは彼の顏はエルサレムに向ひて往きつつありしが故なり。五四 されば弟子等〔これを〕見しとき、ヤコブとヨハネといへり、主よ、エリヤも爲しし如く、我等天より火を呼び下だし、且つ彼等を燒き盡さんとするを好とし給ふや。五五 然るに振り返りて彼等を叱し、且つ曰へり、汝等は己の如何なる靈にてあるかを知らざるなり。五六 そは人の子は人の魂を亡ぼすために來らず、されど救ふためなればなり。乃ち彼等は他の村に往けり。

五七 また彼等の往きつつありしときかくありき、道にて或る者彼に對ひていへり、主よ、いづこにても汝の去り給ふ處に、われ汝に從はん。五八 乃ちイエス彼に曰へり、狐は穴あり、また空の鳥は塒〔あり〕、されど人の子は枕する處なし。五九 かくて他の者に對ひて曰へり、我に從へ。然るに彼いへり、主よ、我に先づ去つて、我が父を葬ることを許し給へ。六〇 然るにイエス彼に曰へり、死人をして己自らの死人を葬らしめよ。六一 また

た他の者もいへり、主よ、我は汝に從はん。されど先づ我が家の者に別を告ぐることを我に許し給へ。六二 然るにイエス彼に對ひて曰へり、手を鋤に着けつつ、且つ後ろに（在る）もの を視る者は、神の國に適ふ（者）にあらず。

第十章

また此等の事の後、主は他の者をも七十（人）立て、且つ將に己自ら來らんとする市々また處々へ、その顏に先立ちて二（人）づつ使はし給へり。二 是の故に彼等に對ひて云ひ給へり、如何にも穫り入は多し、されど働き人は少し。是の故に働き人を穫り入れ場に曳き出だし給はんことを、穫り入の主に祈願せよ。三 往け、見よ、われ汝等を使はさん、狼の眞中にある羔の如し。四 財布をも、糧袋をも、鞋をも携ふる勿れ、また道にて挨拶する勿れ。五 また何づれの家にても入り來れ。先づこの家に、平和（あれ）、と云へ。六 かくてもしそこに平和の子あらば、汝者の平和はその上に留まらん。されどもし然らずば汝等に歸るべし。七 また彼等の（供ふる）物を食し、且つ飲みつつ同じ家に居れ。そは働く者はその賃銀の値あればなり。家より家に移る勿れ。八 また何づれの市にまでも入り來れ。かくて汝等を受けなば、汝等の前に供ふるものを食せよ。九 またそのうちの病める者を癒せ、且つ彼等に、神の國は汝等に近づけり、と云へ。一〇 またいづれの市にまでも入り來れ。然るに汝等を受けずば、その大路に出で來りていへ、一一 我等につきたる汝等の市の塵をも、汝等に對ひて拭ひ去らん。されど神の國は汝等に近づけるを知れ。一二 またわれ汝等に云はん、かの日にはソドムはその市より尙ほ耐へ易からん。一三 汝等禍なるかな、コラヂンよ 汝等禍なるかな、ベテサイダよ。そはもし汝等のうちにて發りしその力ある行の、ツロとシドンとにて發りしならんには、彼等は疾くに麻を着け灰に坐して悔ひ改めたればなり。一四 されど裁の日には汝等のためよりツロとシドンとのためには尙ほ耐へ易かるべし。一五 また汝、天にまで擧げられたるカペナウムよ、汝は陰府に下されたるならん。一六 汝等に聞く者は我に聞き、また汝等を傍寄する者は我を傍寄せ、また我を傍寄する者は、我を使はし給ひし者を傍寄す。一七 かくて七十（人）喜をもて歸り來りて、云ひけるは、主よ、惡鬼さへ汝の名に於て我等に服へり。一八 乃ち彼等に曰へり、われ電の如く天より落つるサタナを看たり。一九 見よ、われ汝等に蛇、また蠍を踏み、また敵のすべての力を制する權を與ふ、されば必ず汝等を害ふ者なからん。二〇 されど靈の汝等に服ひたることを喜ぶ勿れ、されど反つて汝等の名の天に錄されたるを喜べよ。二一 その時、イエス靈に於て歡び、且つ曰へり、父よ、天と地との主よ、われ汝に感謝しまつる。そは汝は此等の事を智者と識者とより隱して、小兒等に默示し給ひたればなり。父よ、然り、そは此の如きは汝の前に悅とし給ひしが故なり。二二 かくて弟子等に返りて曰へり、すべての物は我が父より我に與へられたり。また父の外に子は誰なるを知る者なく、また子及び子のこれに默示するを好とする者の外に、父は誰なるを（知る者なし）。二三 また弟子等の許に返り、人を避けて曰へり、禍なるは汝等が視るところのものを視るその目なり。二四 そはわれ汝等に云はん、

多くの豫言者等また王等は、汝等の視るところのものを見んと欲したれど見ず、また汝等の聞くところのものを聞かんと〔欲し〕たれど、聞かざりしが故なり。

二五 また見よ、或る捉學者、彼を試みんとて立ち上がれり。かくて云ひけるは、師よ、われ何を爲さば、永の生を嗣ぐべきや。二六 乃ち彼答へていへり、汝の心の全きをもて、また汝の魂の全きをもて、また汝の力の全きをもて、また汝の思の全きをもて、主、汝の神を愛し、また汝自身の如く汝の隣人を〔愛すべし〕。二八 かくて彼に曰へり、眞直に汝は答へたり。これを爲せ、されば生くべし。二九 然るに彼は己自らを義とせんと欲して、イエスに對ひていへり、されば我が隣人は誰なるや。三〇 乃ちイエス受けて曰へり、或る人、エルサレムよりエリコに下り往きつつありき。然るに强盜どものうちに陷りしに、彼等はその〔衣を〕剝ぎとり、且つ傷を被らしめ、半死になして措て去れり。三一 かくて折しも或る祭司その道に下り往きたり。されどこれを見て彼方に避けて往けり。三二 また等しくレビも現場にありたれば、來り且つ見て、彼方に避けて往けり。三三 然るに或るサマリア人旅せしが、彼の許に到り且つこれを見て、不便に思ひたり。三四 されば進み往き、エライオンと葡萄酒とを注ぎてその傷を卷き、且つ己が獸に乘せて旅舍に連れ往き、且つ介抱せり。三五 かくて明くる日に出で來りしとき、彼は二デナリを取り出だして主人に與へ、且ついへり、彼を介抱せよ。また汝は〔此の外に〕若干か尙ほおほく費すことを得ん、われ歸り來りたるとき汝に償ふべし。三六 是の故に此等三〔人〕のうち、孰れが强盜どものうちに陷りし者の隣人たるべく、汝に思はるるや。三七 乃ち彼いへり、かの人に慈を爲したる者なり。是の故にイエス彼に曰へり、往け、汝も等しく爲せ。

三八 また彼等の往きしときにかくありき、卽ち彼は或る村に入り來り給へり。かくて或る婦、その名はマルタ〔といふ者〕己の家に彼を受けたり。三九 また彼はマリアと呼ばるる姉妹ありき。かくて彼はイエスの足下に坐して、その言を聞きつつありき。四〇 然るにマルタは手厚き奉事に就きて心擾れたり、さればつかつか來りて、彼にいへり、主よ、我が姉妹われを獨にして事ふべく措くこと、汝には心懸りし給はずや、是の故に我を助くるやう彼に曰へ。四一 然るにイエス答へて彼に曰へり、マルタよ、マルタよ、汝は多くのものに就きて心遣ひし、且つ思ひ擾れたり。四二 されど無くてならぬは一つなり。またマリアは善き方を選びたり、此は彼より奪はれまじ。

第十一章

また或る場處にて彼の祈りておはししときかくありき、〔卽ち〕その休み給ひしとき、弟子等のうちの或る者、彼に對ひていへり、主よ、ヨハネのその弟子等に〔敎へし〕如く、我等にも祈ることを敎へ給へ。二 乃ち彼等に曰へり、汝等祈るときは云へ、天に〔おはす〕我等の父よ、御名の聖められ給はんことを、御國を來らしめ給へ。御意の天に於ける如く、地の上にもならしめ給へ。三 我等のパン、無くてならぬ物を日に循ひて我等

に與へ給へ。四 また我等の罪を我等に赦し給へ、そは我等自らも我等に負へるすべての者に赦せばなり。また我等を試のうちに導き給はず、されど惡より我等を援ひ出だし給へ。五 かくて彼等に對ひて曰へり、汝等のうち誰か友あらん、また夜半に彼の許に往かん、かくて彼にいふ、友よ、三つのパンを我に貸せ。六 我が友、旅より我が許に詣りたれど、彼に供ふべきものなければなり。七 然るに彼は内より答へていふならんか、我を煩はしむる勿れ、既に戸は鎖せられたり、且つ幼兒等は我と共に臥所にあり、我は起きて汝に與ふること能はず。八 われ汝等に云はん、彼はその友なるのゆへに、起きて與へんとにあらざれども、その切なる求めのゆへに起きて、その要する程を彼は與ふるならん。九 またわれ汝等に云はん、求めよ、されば汝等に與へられん。索ねよ、されば汝等は見出ださん。叩けよ、されば汝等に開かれん。一〇 そはすべて求むる者を受け、また索ぬる者は見出だし、また叩く者には開かるべければなり。一一 また汝等のうち父なる者、誰かその子パンを求めんに、石をこれに渡さんや。もし魚を〔求めんに〕魚の代りに蛇をこれに渡さんや。一二 或ひはもし卵を求めんに、蠍をこれに渡さんや。一三 是の故にもし汝等は惡しき者たりとも、善き賜物を己の兒等に與ふることを知る、況して天の父をや、求むる者には聖靈を與へ給ふべし。

一四 また彼は惡鬼を逐ひ出だしつつおはしき、またそれは啞なりき。かくてその惡鬼の出で去りしときかくありき、〔卽ち〕啞は話たれり。されば諸群衆驚けり。一五 然るにそのうちの或る者いへり、彼は惡鬼の長ベルゼブルもて惡鬼を逐ひ出だすなり。一六 また他の者、試みんとて天につきての徵を彼より索めたり。一七 然るに彼はその思を知りて、彼等に曰へり、すべて己己自らに逆らひて分れ爭ひし國は荒れ廢れ、また家に逆らふ家は倒る。一八 さればもしサタナもて我は惡鬼を逐ひ出だす、と汝等云へばなり。一九 また我もしベルゼブルもて惡鬼を逐ひ出だすならば、汝等の子等は誰にて逐ひ出だすや。此のゆへに彼等は汝等の裁き人たるべし。二〇 されどもし神の指にてわれ惡鬼を逐ひ出だすば、そのとき神の國は汝等に到れるなり。二一 强き者甲ふひて己が屋敷を衞るときは、その有ち物平和なり。二二 されど更に强き者來るときは、これに勝ち、その恃みしところの武具を奪はん、かくて彼は分捕物を頒たん。二三 我と共にあらざる者は、我に逆らふなり。また我と共に集めざる者は散らす〔なり〕。二四 不潔なる靈の、人より出で來りたるとき、休を索めつつ水なき場所を經めぐり、かくて見出ださずして云ふ、我が出で來りしところの我が家に歸らん。二五 乃ち到りて〔その〕掃き淸まり、且つ整ひたるを見出ださん。二六 そのとき彼は往き、且つ己自らより尙ほ惡しき七つの他の靈を携へ來らん、かくて入り來りて彼等はそこに住まん、乃ちかの人の終は最初より尙ほ惡しくならん。二七 かくて彼の此等の事を云ひ給ひしときかくありき、或る婦、群衆のうちより聲を揚げて、彼にいへり、汝を宿せる胎と汝の哺みし乳房とは福なり。二八 然るに彼曰へり、神の言を聞き、

且つこれを衛る人々は尙ほ更に福なる者〔なり〕。二九 また諸群衆の、集まり來まりたるとき、彼云ひ始め給へり、此の代は惡なり、徵を索む。されど豫言者ヨナの徵の外、これに與へられじ。三〇 そはヨナのニネベ人に徵となりし如く、人の子も此代にその如くあるべければなり。三一 南の女王は此の代の人と共に裁に起ち、且つ彼等を罪に定むるならん。そはソロモンの智慧を聞かんとて、地の極より到りたればなり。然るに見よ、ソロモンより勝れる者此處に〔あり〕。三二 ニネベの人々は此の代と共に裁に立ち、且つこれを罪に定むるならん。そは彼等はヨナの宣教にて悔ひ改めたればなり。然るに見よ、ヨナより勝れる者此處に〔あり〕。

三三 また燈火を點して窖のうちに置く者なく、また桝の下にも〔置く〕者なし。されど入り往く者の、その光を視るため、燈火臺の上に置くなり。三四 體の燈火は目なり。是の故に汝の目健なるときは、汝の全身も明なり。されど惡しきときは、汝の體も暗し。三五 是の故に汝のうちの光、暗からざるやう鑒みよ。三六 もし汝の全身、明にして少しも暗き處なくば、燈火のその輝をもて汝を照らすが如く、全く明なるべし。

三七 また彼の話たりておはししときに、或るパリサイ人の、共に食事し給はんことを彼に請へり。乃ち入り來りて彼は席に着き給へり。三八 然るにかのパリサイ人、彼の食事の前に、先づ〔手を〕洗ひ給はざりしことを見て驚けり。三九 乃ち主は彼に對ひて曰へり、今汝等パリサイの人々は杯また皿の外側を淨くす。されど汝等の內側は奪と惡とにて滿てり。四〇 無智なる者よ。外側をつくり給ひし者は、內側をもつくり給はざりしや。四一 されど內にあるものを施せ。されば見よ、すべてのもの汝等のために淨きなり。四二 されど汝等パリサイの人々は禍なるかな。そは汝等は薄荷、また茴香、またすべての野菜の十分の一を納むれども、神の裁と愛とを等閑にすればなり。此等は必ず爲さざるべからず、またそれらも差しおくべからず。四三 汝等パリサイの人々は禍なるかな。そは汝等は會堂のうちの上座、また市場にての挨拶を愛すればなり。四四 汝等僞善者なる學者等とパリサイの人々とは禍なるかな。そは汝等は隱れたる墓の如くにして、その上を步む人々これを知らざればなり。四五 然るに捉學者等のうちの或る者、答へて彼に云ふ、師よ、此等の事を云ふて、汝は我等をも辱しむ。四六 乃ち彼曰へり、汝等捉學者等も禍なるかな。そは汝等は担ひ難き荷を人々に負はしむ、されど已はその指の一つをも、その荷に觸れざればなり。四七 汝等は禍なるかな。そは汝等は豫言者等の墓を建つれども、汝等の先祖等はこれを殺したればなり。四八 されば汝等は先祖等の行に證をなし、且つ同意するなり。そは彼等は如何にもこれを殺ししに、汝等はその墓を建つればなり。四九 此のゆへに神の智慧も曰へり、われ彼等のために、豫言者等と使徒等とを使はさん、‖されど彼等はそのうちの或る者を殺し、また〔或る者を〕逐はん。‖ 五〇 是れ世の創より〔このかた〕流されたるすべての豫言者等の血を、此の代より索めらるるため、五一 アベルの血より、祭壇と家との間にて亡ぼされたるザカリアの血に至るまで〔索めらるるためなり〕。然り、われ汝等に云はん、此の代

より索めらるべし。五二 汝等捉學者等は鵬なるかな。汝等は知識の鍵を取り去りて、自ら入りて來らず、且つ入り來らんとする者をも妨げたればなり。五三 かくて彼の此等の事を彼等に對ひて云ひ給ひておはししとき、學者等とパリサイの人々とは緊しく彼に詰め寄り、且つ樣々の事に就きて口外せしめ、五四 彼を訴ふるために、その口より〔出づる〕何事かを捉へんことを索めつつ待ち構へ始めたり。

第十二章

數萬の群衆、折り重なりて來まり、互に踏み合ふ程なりしとき、彼は先づその弟子等に對ひて云ひ始め給へり、パリサイの人々のパン種につきて、己自らに心せよ。是れ僞善なり。二 されど蔽はれて顯はれず、また隱れて知れざるものなし。三 是の故に闇のうちにて汝等のいひしことは、光のうちにて聞かるべし。また部屋にて耳に話たりしことは、屋の上にて宣べらるべし。四 されど我が友なる汝等にわれ云はん、汝等は體を殺して後、尙ほ勝りて何をも爲すこと能はざる者より懼るる勿れ。五 されどわれ懼るべき者を汝等に示さん。殺したる後に、ゲヘナに投げ入るる權をもつ者を懼れよ。然り、われ汝等に云ん此の者を懼れよ。六 五つの雀は二錢にて賣るにあらずや。然るにそのうちの一つも神の面前には忘られじ。七 されど汝等の頭の髮さへみな數へらる。是の故に懼るる勿れ、汝等は多くの雀よりも優るるなり。八 されどわれ汝等に云はん、誰にてもすべて我を人の前にて告白する者は、人の子も神の使の前にて彼を告白すべし。九 されど人の面前にて我を否みし者は、神の使の面前にて否まるべし。一〇 またすべて人の子に逆らふ言を謂はん者、彼には赦さるべし。されど聖靈に逆らひて冒しし者には赦されまじ。一一 また人々汝等を會堂、また長、また權ある者の時必ずいはざるべからざることを、汝等に敎へ給ふべければなり。

一二 また群衆のうちの或る者、彼にいへり、師よ、我が兄弟に、嗣業を我に頒つやう曰へ。一四 然るに彼は彼に曰へり、人よ、誰が我を汝等の仲裁人、また別ち人に立てしや。一五 かくて人々に對ひて曰へり、覩よ、且つ己を衞りて貪を避けよ。そは誰にとりても、その生は有ち物の裕のうちにあらざればなり。一六 また彼等に對ひて一の喩を曰へり、云ひ給ひけるは、或る富める人の地所、豐に稔りたり。一七 されば彼は己自らのうちに勘考して、云ひけるは、われ何を爲さんか。そは我が貨を貯ふべき處なければなり。一八 かくていへり、われかく爲さん、我が倉を取拂ひ、且つ更に大なるを建てん。かくてそこに我が生出物と善き物のすべてを貯へん。一九 また我が魂に謂はん、魂よ、汝は多年の間〔過ぐすに足る〕、多くの善き物を貯へたり。休め、喰へ、飲め、樂めよ。二〇 然るに神は彼に曰へり、無智なる者よ、彼等はこの夜、汝の魂を汝より求め去らん。されば汝の備へし物は誰のものたるべきや。二一 己自のために財を貯へて、神のために富まざる者はかくあるべきなり。

二二 かくて弟子等に對ひて曰へり、此のゆへにわれ汝等に云はん、汝等の魂のために何を喰

ひ、また體のために何を着るべきか、と心遣ひする勿れ。三三 〔そは〕魂は食物より勝り、體は衣より〔勝れ〕ばなり。二四 鴉を思ひ見よ、そは彼等は播かず、また穫らず、納屋もなく、また倉もあらざればなり。然るに神はこれを養ひ給ふ、況して鳥より優るる汝等をや。二五 また汝等のうち誰か心遣ひして、その身丈に寸分をも加ふることを能くするや。二六 是の故にもし汝等いと小さきことすら〔爲すこと〕能はざるならば、何故にその餘のことに就きて心遣ひするや。二七 百合は如何にして育つかを思ひ見よ。彼等は勞せず、また紡がず。されどわれ汝等に云はん、その榮光の極に於けるソロモンさへ、此等の一つ程に裝はれざりき。二八 されども神は今日野に在りて、明日爐に投げ入れらるる草をもかく裝ひ給はば、況して汝等をや。信仰小さき者よ。二九 されば汝等何を喰ひ、何を飲まんと索むる勿れ。また思ひ煩ふ勿れ。三〇 そはすべて此等のものを世界の國人は索むればなり。また汝等の父は、汝等が此等の物の無くてならぬことを知り給ふ。三一 されど汝等、神の國を索めよ。されば此等の物はみな汝等に加へらるべし。三二 懼るる勿れ、小さき群よ。そは汝等の父は國を汝等に與へ給ふことを悅とし給へばなり。三三 汝等の有ち物を賣れ、且つ施せ。汝等のために古びざる財布をつくれ、盡きぬ財を天に〔蓄へよ〕。そこは盜人も近づかず、蠹も壞らず。三四 そは汝等の財のあるところ、そこに汝等の心もあるべければなり。三五 汝等の腰に帶し、燈火に點りてあらしめよ。三六 かくて汝等、己が主のいつ婚筵より歸らんとも、來りて〔戸を〕叩かば、直にこれを開かんと待つ人々に等しかれ。三七 主到りて、目を覺ましをるを見出ださば、かの奴僕等は福なる者なり。誠にわれ汝等に云はん、彼は己自ら帶し、且つ彼等を席に着かしめん。また進み來りて彼はこれに事ふべし。三八 また彼もし第二時に來るとも、または第三時に來るとも、彼等のかくある時に盜人の來るかを知りしならば、彼は目を覺まし、且つその家を穿たしめざりしことを。四〇 是の故に汝等備あれよ。そは汝等の思はざる時に、人の子は來ればなり。四一 然るにペテロ彼に云へり、主よ、我等に對ひて此の喩を云ひ給ふや。或ひはすべてに對ひてもなるや。四二 乃ち主曰へり、されば期に際し量り穀を與ふるために、家從等の上に主の据ゑんとする、信にして怜き家宰は誰なるや。四三 主到りて、かく爲しつつあるを見出ださば、かの奴僕は福なる者なり。四四 眞にわれ汝等に云はん、彼はその有ち物のすべての上にこれを据うべしと。四五 されども若しかの奴僕、その心のうちに、我が主の來るは遲しと云ひて、僕と婢とを扑き、且つ食し、且つ飲み、且つ醉ひ始むるならんには、四六 かの奴僕の主は期せざる日に、また知らざる時に到りて、彼を切つて二つにし、且つその分を信なき者のうちに置くべし。四七 されば己が主の意を知りて備せず、且つその意に從ひて爲さざるかの奴僕は、打たるること多かるべし。四八 されど知らずして笞に値する事を爲しし者は、打たるること少なかるべし。またすべて多く與へられたる者は、索めらるること多かるべく、また多く托せられたる者、その人より彼等

は尚ほ勝りて求むべし。四九 火を我は地に投げ入るるために到れり。さればわれ何をか欲せん、もし既にその〔火の〕燃えたらんには。五〇 されど我はバプテズマもてバプテズマせられざるべからず、さればその遂げらるるまで、我は如何に迫らるるぞや。五一 われ地に平和を與ふるために臨れり、と汝等は思ふや。然らず。われ汝等に云はん、されど寧ろ分れ爭を〔與へんためなり〕。五二 そは今より後、一家に五〔人〕あらんに、三〔人〕は二〔人〕に逆らひ、また二〔人〕は三〔人〕に逆らひて分れ爭ふべければなり。五三 〔即ち〕父は子に逆らひ、また子は父に逆らひ、母は娘に逆らひ、また娘は母に逆らひ、姑はその嫁に逆らひ、また嫁はその姑に逆ひて分れ爭ふべし。

五四 また諸群衆に對しても云ひ給へり、汝等雲の西より立ち昇るを見るときは、直に云ふ、急雨來りつつありと。かくてその如くあり。五五 また南風吹くときは、汝等云ふ、烈しき暑あらんと。かくてあり。五六 僞善者等よ、汝等は地と天の顏を見分くることを知る。されど此の期の如何を見分けざるか。五七 また何ぞ汝等は己自らにつきても、義しき事を裁かざるや。五八 汝を訴ふる者と共に長の前に往くとき、道にて彼より釋さるるやう努めよ。然らざれば彼は汝を裁き人に曳き去るべし。かくて裁き人は汝を執行人に付し、また執行人は汝を檻倉に投げ入るべし。五九 われ汝に云はん、最終のレプタをも償ふまで、必ず汝はそこより出で來るまじ。

第十三章

また人々ピラトがガリラヤ人の血を、彼等の犧牲に混ぜしことに就きて彼に報ぜしとき、或る人々居合せたり。二 乃ちイエス答へて彼等に曰へり、此等のガリラヤ人は此の如き事を蒙りし故に、すべてのガリラヤ人に勝れる罪人なりし、と汝等は思ふや。三 われ汝等に云はん、然らず。されど汝等もし悔ひ改めずば、みな等しく亡ぼさるべし。四 或ひはシロアムの櫓倒れて殺されしかの十有八人は、エルサレムに住めるすべての人に勝りて負へる者なりしと、汝等思ふや。五 われ汝等に云はん、然らず。されど汝等もし悔ひ改めずば、みな等しく亡ぼさるべし。六 また此の喩を云ひ給へり、或る人、己が葡萄園に植ゑたる壹本の無花果樹ありき。かくて彼は到りてその實を索めたれど見出ださざりき。七 されば園丁に對ひていへり、見よ、三年われ來りて此の樹に實を索むれども見出ださず。伐り倒せ。何故に汝は地をも無益ならしめなすや。八 然るに彼答へて云ふ、主よ、われその圍を堀りて肥料を施すまで、此の年も容るせ。九 或ひは實を着くるならん。されどもし着けずば、汝は後これを伐るべし。

一〇 また彼は安息日に、多くの會堂の一つにて教へておはしき。一一 また見よ、十有八年、病の靈をもてる婦ありき、また彼は屈まりて全く伸ぶること能はざりき。一二 さればイエス彼を見て呼び、且つこれに曰へり、婦よ、汝はその病より釋かれたり。一三 かくて手を彼の上に按き給ひければ、忽ち眞直になりて神を頌めたり。一四 然るに會堂長はイエスの安息日に癒し給ひしことを腹立てり、答へて群衆に對ひて云へり、六日あれば、必ずその間に働かざるべからず。是の故にその間に來りて癒されよ、されど安息日の日には爲さざれ。一五 是の故に主、